昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和52年11月15日発行（毎月1回15日発行第9巻第11号）

バドミントン界

11

日本バドミントン協会　The Badminton World No.97 1977



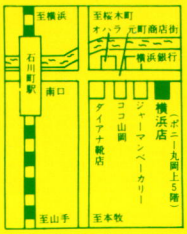
ラケットショップ元町

●渋谷店



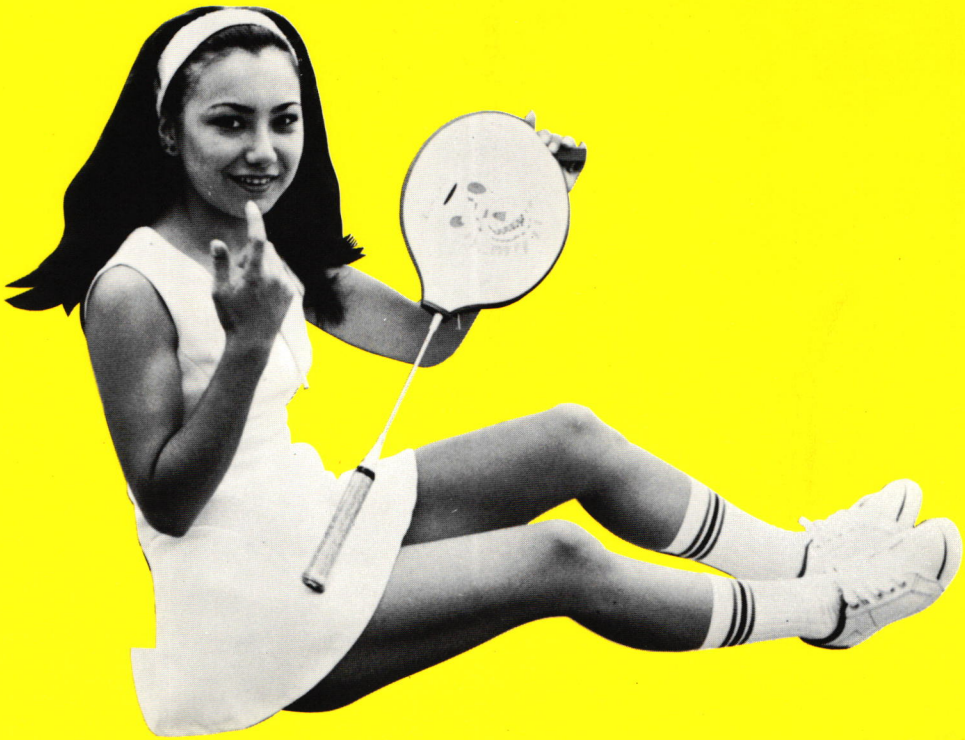
渋谷区渋谷1−25−6 〒150
☎03(400)7390

●横浜店



横浜市中区元町5−203 〒231
元町スカイビル5階
☎045(651)2020

素晴らしい、
出会い、触合い。
期待感!!



——第32回国民体育大会詳報——
若さの埼玉、初優勝 …… 2
ベテラン東京は準優勝
東京、六度目六連勝 …… 4
大阪、複で望み断たれる
石川、栄えの三連勝 …… 6
不運、栃木は三年連続の二位
滋賀、初優勝に輝く …… 8
準優勝は大健闘の栃木
大阪、十回目の偉業 …… 10
二位には高知がくいこむ

新・ガッツ小島の体当り実戦教室⑦ ——— 小島一平
しびれる興奮を体験 …… 12
エツコのバドミントン・ライフ⑥ ——— 柵野尾悦子
チャンス到来、海外初遠征 …… 14
われらのクラブ⑦ ——— 春日部家庭婦人クラブ
この感激を知らせたい …… 16

——第10回日韓高校バドミントン交歓競技会・報告——
高校は韓国が上!? …… 32
——関東大学秋季リーグ戦——
男子は中大が8度目、女子は日体大が10度目 …… 36

◆福岡市青年友好の翼に参加して ——— 藤川 幹
ハダで感じた“アジアはひとつ” …… 40

◎78年カレンダー発行のご案内／31
◎合本バインダーができました／35
◎オールジャパンを予想する／42
◎各地のたより／44
◎ヨーロッパ情報／45
◎バックナンバー一覧表／47
◎お知らせ／編集室から／48

☆グラフ——国民体育大会“あすなろ国体”から／銭谷選手、相沢マチ子さんと結婚

◇表紙デザイン・構成＝野間デザイン室／表紙・本文写真＝赤星三樹(使用カメラ・レンズ、アサヒペンタックス MXSMC-P-M 50/1.4)
◇今月の表紙＝あすなろ国体で大阪に10回目の栄冠をもたらした**河村茂美選手**(四条畷学園高校)

若さの埼玉、初優勝

ベテラン東京は準優勝

〝あすなろ国体〟第32回国民体育大会秋季大会は、10月3日から4日間、青森県浪岡町・浪岡町民体育館で盛大に繰り広げられた。

スローガン〝心ゆたかに力たくましく〟のもと、地元の心温まる歓迎と、みちのくの秋に包まれて連日熱戦の連続。

得点争いでも、少年男女の活躍により、地元青森県が総合優勝の栄誉に輝いた。

◆成年男子

▽3回戦

神奈川県 2—0 三重県
- 小島辻 2 (15—6, 15—3) 0 小林伊藤
- 笠井 2 (15—2, 15—1) 0 山口
- 千葉県田所 2 (15—2, 15—6) 0 日下辻本
- 中井 2 (15—6, 15—5) 0 辻本
- 西村 2 (15—2, 15—5) 0 辻本

埼玉県 2—1 鳥取県
- 飯野土田 2 (15—10, 15—2) 0 高真出石
- 尾崎 1 (12—15, 8—15, 15—10) 2 出石
- 土田 2 (15—4, 15—6) 0 高真
- 新潟県捧鈴木 1 (17—18, 15—3, 8—15) 2 斉藤須藤
- 丸山 2 (18—15, 15—6) 0 浅利
- 鈴木 2 (15—5, 15—7, 8—15) 1 須藤
- 石川県相川米 2 (15—12, 15—9) 0 山並森
- 堂谷内 2 (15—4, 15—12) 0 菊地
- 東京都池田栂野尾 2 (18—17, 15—6) 0 越後屋遠藤

秋田県 2—0 宮城県

▽準々決勝

- 銭谷 2 (15—4, 15—2) 0 舟山
- 北海道木村遠藤 2 (15—11, 15—8) 0 谷口磯野
- 富山県九原 2 (15—5, 15—11) 0 重山
- 今泉牧野 2 (15—2, 15—8) 0 和田鷲尾
- 米沢 2 (15—8, 15—9, 10—15) 1 山下
- 神奈川県小島辻 2 (15—0, 15—10) 0 田所中井
- 笠井 2 (17—14, 15—9, 9—15) 1 西村
- 埼玉県飯野土田 2 (15—3, 15—0) 0 捧鈴木

新潟県 2—0 千葉県 / 埼玉県 2—0 新潟県

▽準決勝

- 尾崎 2 (15—2, 15—3, 1—15) 1 丸山
- 東京都池田栂野尾 2 (15—9, 17—14) 0 相川米
- 北海道木村遠藤 2 (15—2, 15—6) 0 堂谷内
- 富山県 2—1 北海道
- 遠藤 2 (15—4, 15—11, 14—17) 1 今泉
- 九原 2 (15—7, 15—6) 0 米沢
- 遠藤 0 (15—18, 6—15) 2 牧野今泉
- 木村 0 (15—12, 10—15, 11—15) 1 小島辻
- 飯野土田 2 (15—12, 15—10, 15—11) 1 小島辻
- 埼玉県 2—0 神奈川県
- 尾崎 2 (15—4, 3—15, 15—5) 1 笠井

▽三位決定戦

神奈川県 2—0 北海道
- 小島辻 2 (15—2, 15—3) 0 木村遠藤
- 笠井 2 (15—2, 15—3) 0 九原
- 東京都池田栂野尾 2 (15—4, 11—15, 15—7) 1 木村遠藤
- 銭谷 2 (15—6, 15—3) 0 九原

▽決勝

埼玉県 2—1 東京都
- 飯野土田 2 (17—14, 15—6) 0 池田栂野尾
- 尾崎 0 (6—15, 7—15) 2 銭谷
- 土田 2 (15—5, 15—10, 9—15) 1 栂野尾

（埼玉県は初優勝）

若さと力の勝利

ダブルスに勝った方が俄然有利になる決勝の飯野・土田組対池田・栂野尾組の対戦は、予想通りの接戦となった。しかし今大会も絶好調の飯野・土田組に対し、池田・栂野尾組は苦戦の連続で、集中力の差がゲームポイントを取りながらの敗戦を招いた。

第2ゲーム、池田・栂野尾組がレシーブ力を発揮、14—12とゲームポイントを握ったが、飯野・土田組は積極的な攻撃を仕掛けて逆転。充実ぶりを示した。

銭谷が尾崎を一蹴した後、雌雄を決すべく土田と栂野尾が登場。栂野尾は今季のシングルスの好調をそのまま維持して、第1ゲームを速い動きで先取。第2ゲームになっても、丁寧な球配りで一時は9—9となり期待を抱かせた。しかしここから土田は、若さにまかせて攻撃に徹底して、1ポイントずつをスマッシュ、ヘアピンで重ね、ファイナルに勝負を持ち込んだ。

ファイナルになっても土田のスピードは衰えず、逆に動きの鈍くなった栂野尾を一方的に攻めて、埼玉の初優勝が決まった。

埼玉の優勝は、飯野、土田、尾崎のナショナルチームのメンバーから見れば順当な結果だったが、その力と若さによる快進撃は素晴らしいものだった。

ダブルスに絶対的な自信を持ち、シングルスにも豊富な駒が揃って、余裕を持って伸び伸びと試合に臨んでいた。

新コンビ大活躍

その自信を持ったダブルスにあと一歩と迫ったのが、神奈川の小島・辻のコンビだった。

前半、ややちぐはぐなプレーで飯野・土田組の速攻を許し、リードを奪われたが、中盤になってコンビネーションがスムーズになると持ち味を発揮。小島の手の延長かと思えるようなラケットさばきが飯野・土田組の速いスマッシュを巧みにかわし、辻の爆発的なジャンプスマッシュが相手コートに突き刺さってタイとなった。

両者一歩も引かないファインプレーの応酬は、大いに観衆をわかせた。飯野・土田組が終始リードを保ったまま14—9とマッチポイントを握った。小島・辻組もジリジリと挽回を図り、12—14まで追いかけたが、今一歩のところで惜しくも大魚を逃がした。

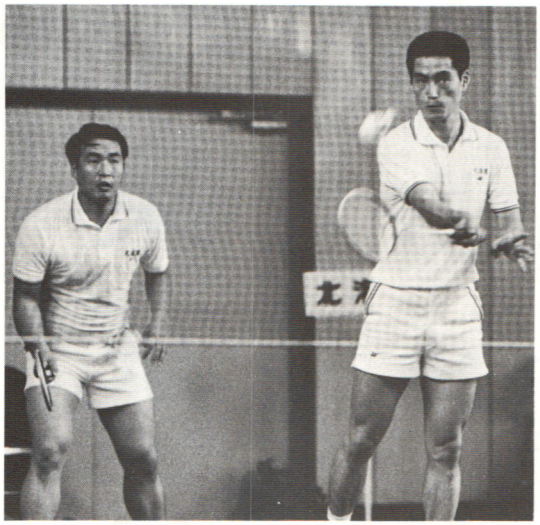
国体に強い神奈川の、面目躍如たる奮闘だった。

北海道、ベスト4へ

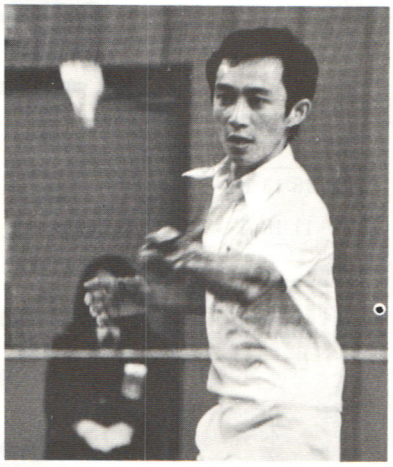
北海道が富山を破ってベスト4へ進出し、元気なところを見せた。

木村・遠藤組は破壊力ある攻撃こそないが、レシーブ力にすぐれ粘りのあるプレーを繰り広げて善戦した。池田・栂野尾組ともファイナルを演じたほか、今泉・牧野組にもよく頑張り、相手の体力の消耗にひと役買ったのも勝因の一つだろう。

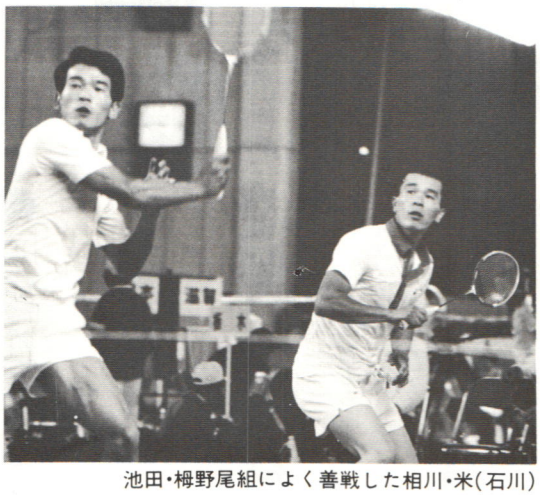
昨年準優勝の富山は、今季の不振を反映させるように元気がなく、ベスト8にとどまったのは寂しい気がする。



落ち着いたレシーブ力を見せた木村・遠藤（北海道）



富山に逆転のきっかけをつくった九原（北海道）



池田・栂野尾組によく善戦した相川・米（石川）

東京六度目六連勝

大阪、複で望み断たれる

◆成年女子

▽2回戦

東京都 2―0 岡山県
湯木 15―12 石田
池田茂 15―4 林

池田美 11―4 11―5 石田
角谷 15―8 17―14 服部
石垣 12―10 11―1 山脇

石川県 2―0 滋賀県
松田 11―5 11―1 田中

岐阜県 2―0 熊本県
広沢 7―15 1 後藤妙
名和 15―4 15―0 1 後藤早

青森県 2―0 高知県
外崎 15―1 15―10 0 長井
松田 15―1 15―10 0 田中

大阪府 2―0 福井県
谷 15―4 15―7 0 多田
秋本幸 11―6 11―0 0 弓削

佐円 11―6 11―0 0 弓削

▽準々決勝

東京都 2―0 石川県
湯木 15―10 15―2 0 石垣
池田茂 11―1 11―1 0 角谷

青森県 2―0 岐阜県
外崎 15―1 13―18 15―11 1 名和
松田 11―4 11―5 0 広沢

大阪府 2―0 長崎県
谷 15―5 15―0 0 高橋
秋本幸 11―4 11―2 0 柿本

香川県 2―0 埼玉県
田所 12―15 15―4 15―2 0 坂本
石原 11―3 11―1 0 坂本

埼玉県 2―0 北海道
千葉 15―10 11―3 0 藤島
坂本 15―10 15―10 0 遠藤

香川県 2―0 愛知県
田所 15―4 15―2 0 中川
石原 11―1 11―0 0 中川

牛田 11―2 11―1 0 坂本

▽準決勝

東京都 2―1 青森県
湯木 15―10 11―3 0 外崎
池田茂 15―4 15―10 0 松田

池田美 2―11 0―11 2 松田

香川県 2―1 青森県
田所 18―14 15―6 0 外崎
石原 11―6 5―11 1―11 2 松田

牛田 11―3 11―4 0 外崎

▽決勝

東京都 2―0 大阪府
湯木 15―5 15―3 0 谷
池田茂 11―5 11―3 0 西尾

▽3位決定戦

香川県 2―1 青森県
秋本幸 15―4 15―11 0 田所
石原 12―10 4―11 1 牛田

西尾 12―10 4―11 1 牛田

大きい湯木の存在

東京の圧勝だった。さきの社会人大会で完全に復調した湯木は、シングルスはもちろん、ダブルスでも池田（茂）と組んで、鮮やかな完成されたプレースメントを披露した。池田（美）の不調はあったが、それを補って余りある力を池田（茂）が出し、まったく危げない優勝だった。

決勝で対戦した大阪も、ダブルスにいつもの精彩がなく、谷が後衛で打って、秋本（幸）が前衛で落とすといったパターンが決まらず、一方的に敗れ去った。逆に湯木をパートナーに得た池田（茂）が、水を得た魚のように生き生きと走り、鋭いスマッシュを打っていたのが好対照だった。

湯木の存在が、やはり相手にとっては脅威であり、それがそのまま、試合に影響していたといっても過言ではないだろう。

チームワークの三位

優勝した東京が湯木一人の力

（東京都は6連勝6度目）

に負うところが大なのに比べ、三位に入賞した香川は、まさにチームワークの結晶だった。

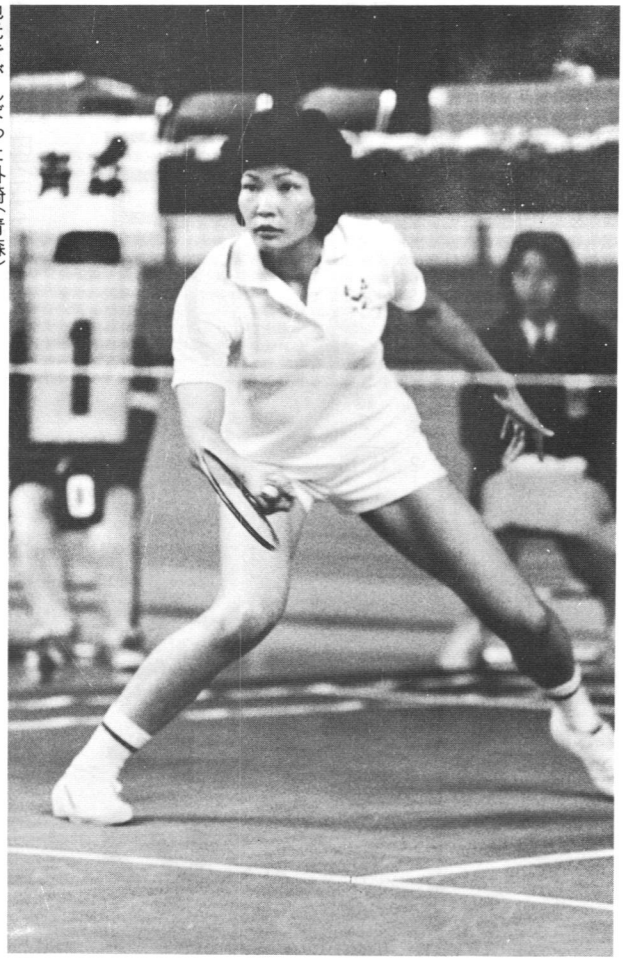
中でも常に第1シングルスに起用された牛田は、大阪戦では西尾と、三位決定の青森戦では松田と、ともに敗れはしたが、持ち味を十二分に出し切って、敗北にも実にすがすがしいものがあるということを見せてくれた。小柄な体を一杯に使って拾い、チームの引き締め役になった。

団体戦では、勝つのはもちろん大切だが、負け方もチームの士気に大きく影響を及ぼすはずだ。実力上位の者に対してひるむことなく勝負を挑んだ牛田の試合態度は〝スポーツマン精神〟そのものだった。

松田〝孤軍奮闘〟

〝地元〟青森も、場内の声援を背に健闘したが、惜しくも厚い東京の壁を破ることができなかった。

松田は獅子奮迅の活躍で、ダブルス、第1シングルスと連続する試合を克服して、エースとしての重責を立派に果たした。その肉体的、精神的なスタミナの消耗は想像を絶するだろう。松田の働きに敬意を表すると同時に、その過酷なオーダーを提出しなければならなかった苦心の跡がうかがえた。



地元でがんばった外崎(青森)

2年連続の決勝進出はならず……石原・田所(香川)



石川、栄えの三連勝

不運、栃木は三年連続の二位

◆成年勇子教員

▽1回戦

青森県 2—1 北海道
佐藤清 2（15—5）0 菅原
佐藤光 2（15—8）0 奥山

宮崎 0（8—15）2 奥山
（13—15）

佐藤光 2（15—4）0 菅原
（15—3）

宮城県 2—0 三重県
渡部 2（15—6）0 西城
木戸 2（15—4）0 平田

渡部 2（15—4）0 西城
（15—11）

工藤 2（15—2）0 小田
（15—0）

和歌山県 2—0 香川県
山本 2（15—11）0 藤原
米山 2（15—8）0 竹林

米山 2（17—15）0 竹林
（15—0）

群馬県 2—0 宮城県
今井 2（15—6）0 渡部
栗原 2（18—14）0 木戸

桐生 2（15—10）0 渡部
（15—3）

▽準々決勝

石川県 2—0 青森県
長谷川 2（15—5）0 佐藤清
舛田 2（15—4）0 佐藤光

舛田 2（15—4）1 宮崎
（16—17）
（15—2）

熊本県 2—0 岡山県
工藤 2（18—15）0 三宅
稲津 2（15—6）0 小田

▽準決勝

石川県 2—0 熊本県
長谷川 2（15—13）0 工藤
舛田 2（15—10）0 稲津

長谷川 2（15—8）1 工藤
（6—15）
（15—2）

群馬県 2—1 和歌山県
今井 2（15—10）0 山本
栗原 2（15—3）0 米山

桐生 0（8—15）2 山本
（5—15）

▽三位決定戦

和歌山県 2—0 熊本県
山本 2（15—2）0 工藤
米山 2（15—5）0 稲津

山本 2（8—15）1 工藤
（15—8）
（15—11）

今井 2（15—5）0 米山
（15—6）

▽決勝

石川県 2—0 群馬県
長谷川 2（10—15）1 今井
舛田 2（15—3）0 栗原
（15—5）

舛田 2（15—6）0 桐生
（15—7）

（石川県は3連勝8度目）

石川、混戦を抜ける

戦前の予想がむずかしい激戦区だった。石川をはじめ群馬、和歌山、さらには熊本、宮城と強豪がひしめき、まったく予断を許さなかった。

しかし、若い力の舛田の加入が功を奏して、長谷川との意気のピッタリ合った石川が混戦を制した。

石川対群馬の決勝での対決も今年で3年連続。今井・栗原組はスタートから気合の入った攻撃で、角度あるスマッシュ力が長谷川・舛田組を上回って1ゲームを先取したが、2ゲームになると、長谷川組のレシーブが絶妙に冴えてタイにもつれこんだ。ファイナルになっても長谷川組のレシーブは崩れず、無理にコーナーを狙う今井組のミスが目立ち、一方的なスコアで長谷川組がダブルスを取り、戦局を優位に導いた。

第1シングルスに連続で出場した舛田も、スタミナに自信があるのか終始余裕のあるペースで桐生を振り切り、優勝へ大きく貢献した。

ベテランもフル出場

山本・米山組という今年度の教職員大会優勝のペアを擁する和歌山は、ダブルスを優位に戦えるだけ分があるかと思われたが、肝心のそのダブルスに今一つの精彩を欠いて敗退した。

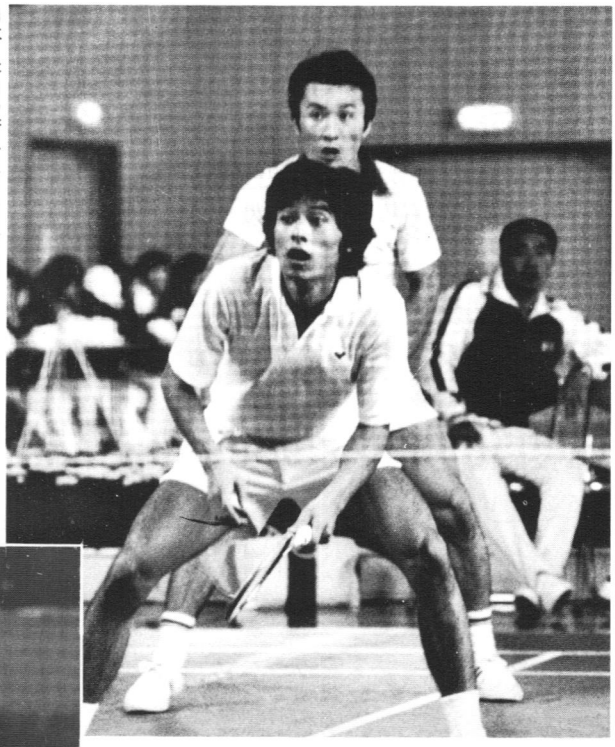
準決勝でこれを破った群馬の今井・栗原の当たりは素晴らしく、力強い角度のある攻撃で、和歌山の技巧を不発に封じた。

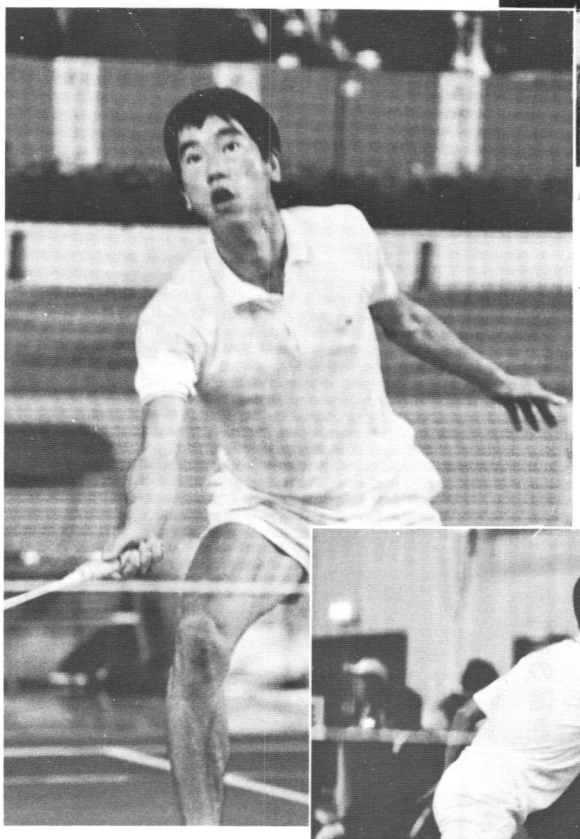
同じく準決勝で敗れた熊本も、工藤の大車輪の働きでよく善戦したが、若さのある石川にパワー不足、スピード不足の弱点をつかれ、決勝進出をはばまれた。

熊本の工藤、稲津のベテランの健在ぶりは、新陳代謝の激しいバドミントン競技の中にあってたのもしい限りだ。

宮城の渡部・木戸組もベテランの味を発揮して、絶好調の今井・栗原に今一歩のところまで迫ったが、セッティングからミスを重ね惜しい星を落とした。

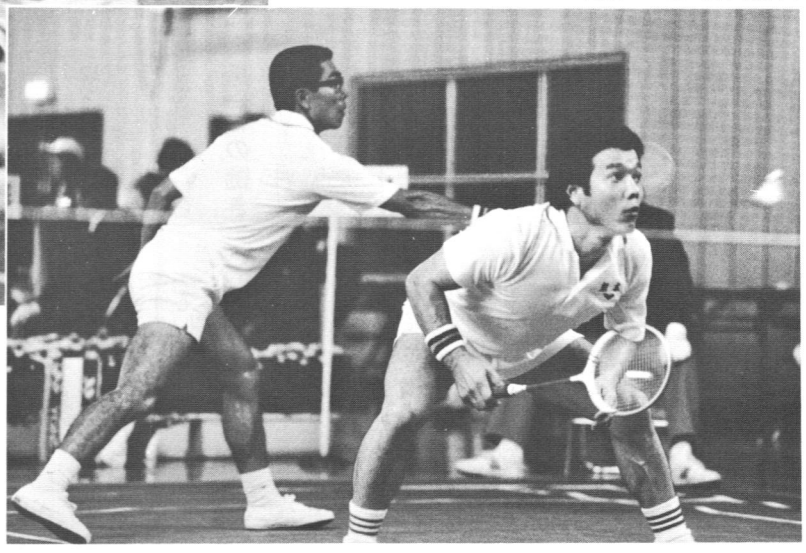
山本・米山の若手ペア(和歌山)





◀悲願の優勝へがんばったが……今井(群馬)

ベテラン健在　工藤・稲津(熊本)



滋賀、初優勝に輝く

準優勝は大健闘の栃木

◆少年男子

▽1回戦

福井県 2―0 宮城県
坂井 15 15 高橋
中山 2 15 11 0
18 14 庄子 0

中山 15 15 堀米
2 15 8 0

栃木県 2―1 山口県
角田 15 15 喜良
久郷 2 15 13 0
3 川原

関根 7 15 喜良
0 15 17 15 2
久郷 18 15 5 川原
2 13 0

滋賀県 2―1 福井県
西山 15 15 坂井
矢部 2 15 2 0
9 中山

西山 15 15 中山
2 15 3 0
山田 8 4 15 坂井
0 15 15 2

青森県 2―1 三重県
丹藤 15 15 野呂
楠美 2 15 4 0
15 6 松月

▽準々決勝

島内 11 13 中川
0 15 15 2
丹藤 15 15 松月
2 15 2 12 0

宮本石 15 15 千葉
2 15 10 7 0
熊本県 2―1 北海道
上村 6 15 8 千葉
1 15 6 15 2
宮本 15 15 佐々木
2 15 5 3 0

栃木県 2―0 香川県
角田 15 15 中西
久郷 2 15 3 7 0
関根 15 15 木田
2 15 2 0 0

西山 15 15 宮本
矢部 2 15 16 17 1
10 4 15 本石
山田 15 4 15 2
0 10 15 宮本

▽準決勝

滋賀県 2―1 熊本県

西山 2 15 12 15 2 0 本石
栃木県 2―1 青森県
角田 0 7 15 5 15 2 丹藤
久郷 15 5 15 4 楠美
関根 2 15 7 15 4 1 島内
久郷 2 15 10 15 4 1 丹藤

▽三位決定戦

青森県 2―1 熊本県
丹藤 8 15 宮本
楠美 2 18 15 12 1
17 本石
島内 13 13 18 15 2
0 上村
丹藤 2 17 17 14 15 0 宮本

▽決勝

滋賀県 2―1 栃木県
西山 18 18 角田
矢部 2 18 17 13 0
久郷

山田 13 15 関根
0 12 15 2
西山 15 3 久郷
2 15 10 0
（滋賀県は初優勝）

西山〝大黒柱〟の働き

インターハイ三冠王・西山を持つ滋賀県が辛くも逃げ切ったが、栃木の予想以上の頑張りに、決勝は熱のこもった好ゲームとなった。

強敵青森を下して調子の波に乗る栃木は、強気な攻めに徹して押せ押せムード。久郷のスマッシュがよく当たり、あと一息のところまで追いつめたが、要所要所で繰り出す西山の強打を受け切れず、惜しくも大切なダブルスを落した。

しかし、それでも勢いに乗る栃木の火は消えず、第1シングルスの関根が山田に競り勝ち、決勝戦らしい雰囲気を盛り上げた。

だがさすがにインターハイ三冠王・西山は冷静だった。第1ゲームから豪快なスマッシュを連発して、久郷を寄せつけず、初優勝の原動力となり貫禄を示した。

滋賀は、矢部・西山のペアと西山のシングルスがベンチの信頼によく応えて健闘。特に西山のシングルスは常に安定した強さを見せ、抜群のスマッシュ力と軽快な脚力は、今年の高校球界ナンバー1を今さらながら実証した。

準決勝となった栃木も、夏を境にその成長は素晴らしく、火つけ役となった関根のシングルスでの働きが目についた。

選手と観衆が一体

地元青森の総合優勝がかかった三位決定戦は、まれに見る大激戦となり会場は興奮のるつぼ

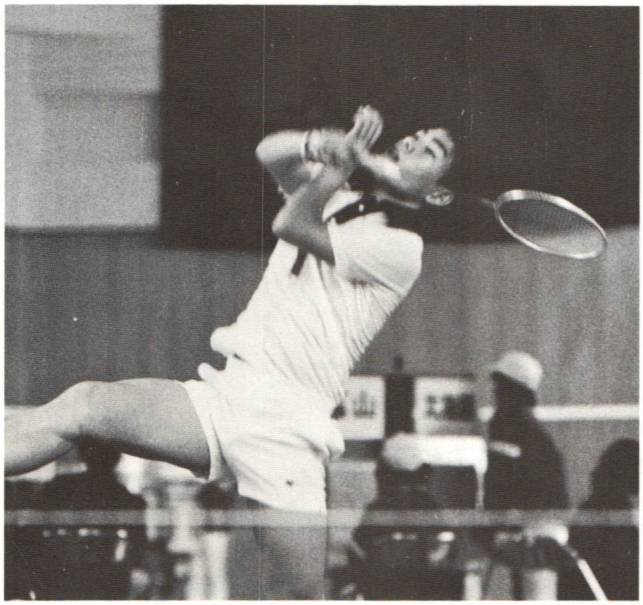
と化した。

丹藤・楠美組は前半雑な攻撃でリードを許したが、後半、宮本・本石組の浮き足立つのを的確にとらえ、見事に逆転に成功。総合優勝へ王手をかけたが、ここから熊本の執拗な反撃が始まり、文字通に手に汗握るシーソーゲームとなった。

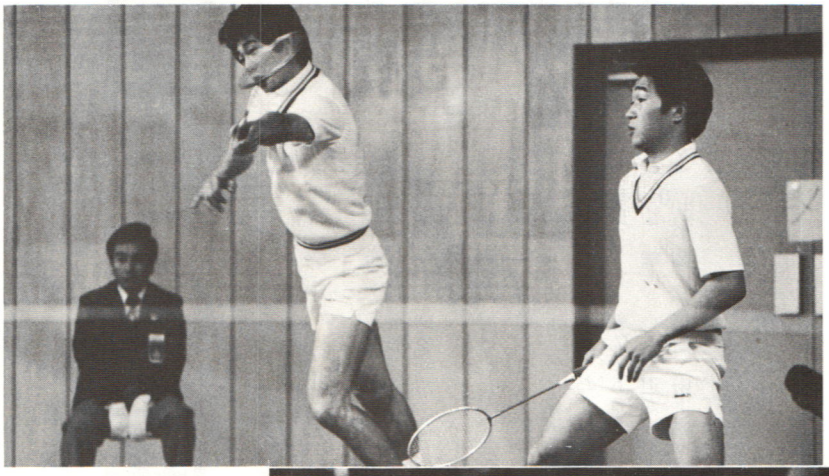
第2シングルスの丹藤は、宮本のガムシャラとも思える攻撃に手を焼いたが、会場の声援に操られるように、コートを走り回り、拾いまくってミスを誘い、逆転劇のフィナーレを飾った。

熊本も一歩も引かずに応戦したが、攻撃がやや単調だったのと、肝心なところで肩に力が入り、スマッシュが浮いてしまった。

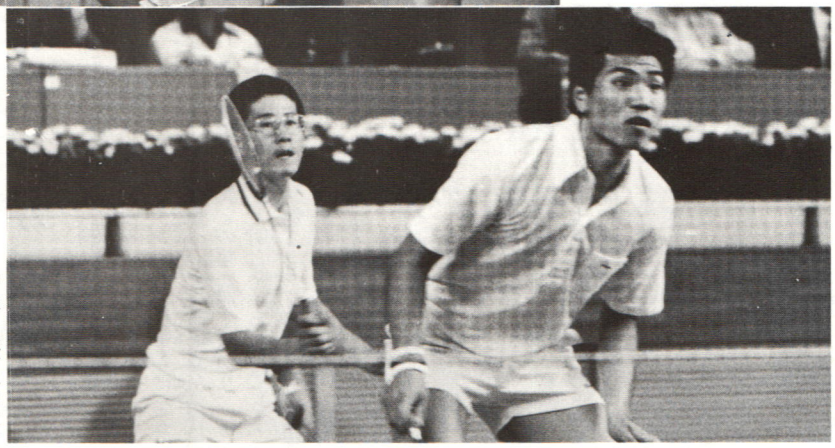
準決勝でも熊本は、滋賀を相手によく戦ったが、ダブルスに安定性を欠き、好不調の波が大きく、ファイナルまで持ち込むのがやっとだった。春には西山に勝つ実績を持つ宮本だけに、それ以後の進境度が寂しい感じだ。



関根(栃木)



丹藤・楠美(青森)



宮本・本石(熊本)

大阪、十回目の偉業

二位には高知がくいこむ

◆少年女子

▽1回戦

栃木県 2—0 静岡県

添野 15—5 11—1 0青木
上野 2 15—5 0小田
岩崎 2 11—1 0青木

山形県 2—1 熊本県

山崎 15—10 0高松
近藤 2 15—10 0高松
山崎 0 1—11 2高峰
近藤 2 11—0 0野中

大阪府 2—0 栃木県

平 15—1 0上野
河村 2 15—1 0上野
原口 2 11—7 0添野

青森県 2—1 北海道

葛西 15—9 0中尾
山下 2 15—9 0中尾

▽準々決勝

大阪府 2—0 栃木県

平 15—5 0添野
河村 2 15—1 0上野
原口 2 11—6 0添野

青森県 2—1 北海道

葛西 15—7 星川
山下 2 15—9 0中尾

葛西 1 6—11 12—10 8—11 2星川

山下 2 11—1 11—4 0中尾

高知県 2—0 岡山県

浜田 15—9 5—15 0梶田
田村 2 15—9 0田辺

浜田 2 11—4 11—5 0田辺

山形県 2—1 新潟県

近藤 15—4 12—15 15—10 1斉藤
山崎 2 15—4 12—15 15—10 1桑野

山崎 0 2—11 1—11 2斉藤

近藤 2 11—4 12—11 0高野

▽準決勝

大阪府 2—0 青森県

平 15—2 17—16 11—15 1葛西
河村 2 15—2 17—16 11—15 1葛西

葛西 1 6—11 12—10 8—11 2星川

原口 2 キケン 11—9 0葛西

▽三位決定戦

青森県 2—0 山形県

葛西 2 15—7 15—6 0山崎
山下 15—7 0山崎

柳沼 2 11—8 3—11 11—5 1山崎

浜田 2 11—3 11—3 0山崎

高知県 2—0 山形県

浜田 15—12 15—4 0山崎
田村 2 15—12 0近藤

原口 2 11—5 12—10 0浜田

▽決勝

大阪府 2—0 高知県

平 15—0 15—3 0浜田
河村 2 15—0 0田村

（大阪府は3連勝10度目）

青森、大阪に肉薄

なんといっても大阪の独走ムードを、一瞬ヒヤリとさせた地元青森の準決勝での奮戦ぶりが印象的だった。

インターハイ優勝ペアの平・河村組を向うに回し、常に主導権をとって攻撃し、持てる力を十二分に発揮した。玉砕的な開き直ったような大胆な動きと、転んでもラケットに当てようという気迫がうまくかみ合って、葛西・山下組はマッチポイントを握り、打倒大阪なるかと思わせた。

しかし、そこから大阪は伝統的な強味か、驚異的な二枚腰を見せた。マッチポイントを握られても臆することなく、きわどいコースへシャトルを集め、本来の闘争心が次第に顔を出し始めた。一方が強気になれば、一方が弱気になるのはネット競技の特徴だ。このどうしても取らなければならない第2ゲームを失ったことで、青森の敗北は決定したといっても過言ではないだろう。

ファイナルゲームになると、活気づいた大阪と意気消沈の青森との差が開くばかり。はっきりと明と暗がわかれてしまった。

第1シングルスでも、精魂使い果たした葛西は、序盤戦を快調にとばして大きくリードしたが、途中から足のケイレンを訴えるように動けなくなり、第1ゲーム終了と同時に棄権した。

もし、ダブルスを2ゲームで青森が勝っていたら、体力も温存できただろうし、葛西はインターハイ団体で原田に土をつけた唯一の選手でもあり、局面はどう流れたかわからない。マッチポイントからの1点が、青森にとっては目に見えない大きな壁となった。

高知、進境の跡

一方、大阪とともに決勝へ進

出した高知は、岡山、山形を難なく破って、余裕ある勝ちぶりを見せていたが、さすがに大阪との対戦は荷が重く、わずかに浜田が原口に健闘、成長の跡がうかがわれたが、実力の差は歴然としていた。

それにもまして、前日の苦戦を薬に、平・河村組はスタートから集中力のある試合内容で、浜田・田村組の力を出させぬままに押し切ったところは、これも伝統の力であろうか。

力を出し切った大阪と、出し切れなかった高知に、予想以上にワンサイドゲームとなって現われた。

優勝した大阪チームは、インターハイの三冠トリオでメンバーを固めたことから考えれば、その結果は順当だったが、高校生の精神的なモロさがあることも、まだまだ否定できない。

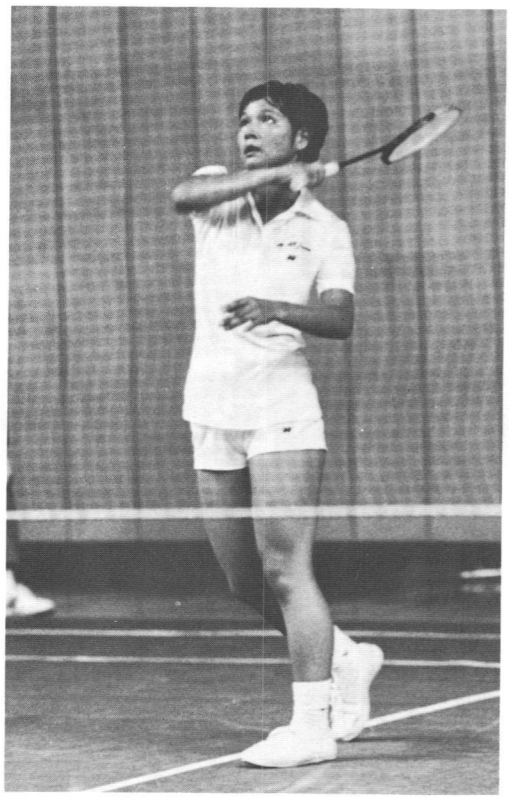
逸材は目白押し

優勝した大阪と三位の青森の活躍が際立っていたが、高知をはじめ、山形、北海道の善戦も忘れることはできない。

山形は、強豪新潟のエース、高野の病後の不調に乗じて勝利を握る格好となったが、対熊本戦でもそうだったように、パワーに欠ける分を、懸命に走り回って補い、惜しくも三位入賞は逃がしたが、好感の持てるプレーを繰り広げた。

北海道は、シングルスの星川が大殊勲。青森の葛西に対し、長身からの鋭いカット、スマッシュを駆使して見事に勝利を飾った。気力が充実して、取られたらすぐ取り返す内容は、葛西のアセリを誘っていた。葛西に渡ったサービス権を、一球目のスマッシュで奪い返す強打を発揮して、長身の利を有効に使っていた。

栃木の添野も、伸び伸びした動きで原口と互角に渡り合った。詰めの甘さであと一息足りなかったが、天性のバネに加えて、栃木特有の根性が出てきたようだ。



決勝までは快調に進んだ浜田(高知)



残念！　途中棄権の葛西(青森)



粘りあるプレーをみせた近藤・山崎(山形)

㊊ガッツ小島の体当り実戦教室 7

しびれる興奮を体験

●小島一平。

●鬼コーチ村山氏の〝しごき〟のリレー

念願であった全日本チャンピオンとなり、夢であった全英選手権に参加できると思ったのもつかの間、残念無念にもトマスカップ豪亜ゾーン決勝に参加すべく、事前の合宿をどうしても抜けられず、涙をのんだのである。私にとっても非常にショックであったし、また前年、初参加で準優勝の秋山氏の心痛は余りあるものがあった。そして遂に、秋山氏と一緒に全英参加という夢は、一度も果たされずに終ってしまったのである。

しかし、あくまで方針には従うべきであるし、ト杯へ向い猛烈なトレーニングに打ち込み出したのである。

合宿は三ヵ月に一度の割合で行なわれ、内藤監督、村山コーチ、堺主将のもと、候補選手12名でレギュラーの座を目指し、闘争心むき出しの練習に明け暮れた。

特に村山コーチのきびしさは大変なもので、体育館での練習を終えるとグランドでのダッシュ。これには参った。方法は二組に分かれ、スタートを別々にして、お互い相手のチームの者を追いかけ、どちらかが追いつくまで終わらないというもので、いつまでもいつまでも果てしなく続いた。リレーではあるが、四百メートルのダッシュであるし、負けるのも面白くないので、お互い意地で頑張るのである。まさに恐怖のリレーであった。

すなわち、スポーツはまず走ることが基本であるということである。

熾烈なレギュラー争いは日増しに激しくなる一方。なにしろ12名の中から正選手の座は6名であるから、一日に多い時は6試合から8試合も消化し、それが一週間も続くのである。まず技術はもちろん、体力と根性の闘いである。とにかく、疲労しても皆同じことをやっているのだ。あとは精神力の差が出るわけで、もう駄目だとか、気を抜くとすぐに結果に現われてしまう。

私は全日本を取った直後でもあるし、自信がつきはじめた頃であったが、それにも増して秋山氏をはじめ、目標を私一本にしぼってくるので、どの相手にも気をゆるめることができなかった。

練習で勝てない者が、試合で勝てるわけはない。あくまでチームのレベルアップをめざすならば、そのチーム全員がどのような条件においても、相手のことを考え、自分勝手ではなく、全力でぶつかり合わなければならない。

私が大学四年の主将の時にも、常に後輩が気を抜いたプレーを一人でもしていると即座に練習を中止。その者に説教すると同時にその学年に対し、連帯責任として活を入れた経験がある。

最終合宿でいよいよメンバーも決定。豪亜

●トト杯へ初参加〝国技〟の国へ

ゾーンへ出場すべく、夏の日本から冬のニュージーランド、オーストラリアへ出発。

情報で、まず負けることはないと確信していたためか余裕十分であった。両国ともに9—0の完勝で帰国。豪亜ゾーンの代表となり、インターゾーンへ進出。国技でもあるインドネシアへ遠征。

驚いたことに、われわれ各国の選手団は税関などフリーパス、パトカーの先導でホテルへ到着するなりサイン攻めといった具合で、改めてインドネシアのバドミントンの人気に圧倒された。そして練習は本会場を使用することができず、後で聞いた話では、地元インドネシアは本会場で練習していたそうで、勝つためならば多少のことはといった感じでアンフェアであった。私は真昼の一番暑い時に帽子をかぶり、一人黙々とジャカルタの街を走った。

試合前の一週間があっという間に過ぎ、いよいよ最初の相手アメリカと対戦。現在のアメリカは男女ともにレベルダウンしているが、当時は強力メンバーで、やってみるまでわからないほどだった。

まず、シングルスでジム・プールという巨漢選手。もちろん全米チャンピオン。一言で表わすなら、ゴリラがラケットを振り回しているといった感じで、顔は非常に愛嬌のあるチンパンジー。小柄な私との勝負は、まさか私が勝つとは思わなかったのか、1ゲームを先取すると大観衆は大騒ぎ。クロスゲームの末私が勝利を収めるともう場内は割れんばかりの拍手。わずか一試合で私はすっかり人気の的となり、多少とまどってしまった。

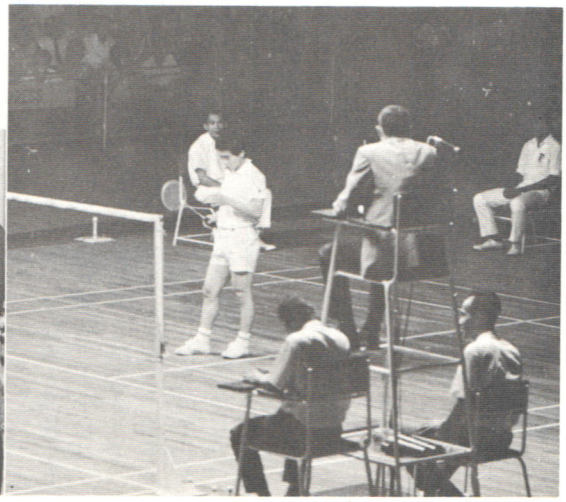
インドネシア国民にとっては、サッカーとともにバドミントンは最大のイベント。ましてやインドネシアが強豪であるので、試合開始から終了までテレビ中継があるという具合で、アメリカに勝ち次のマレーシア戦（準決勝）までの休みの間、街へ出ると子供が寄って来たり、サインをもらいにホテルまで押しかける有様。

そして対マレーシア戦は一万人の大観衆の中で行なわれ、秋山氏が善戦むなしく敗れ、私も完敗。結局4—0とリードされて初日を終了。二日目はもう開き直り、体当りの精神で戦ったのがよく、秋山氏ともどもシングルスに勝ち、観衆は大変な騒ぎ。結局、宮永氏が第三シングルスの奮闘むなしく敗れ、万事休す。

しかし、はじめて大観衆の中でのプレーは驚異であり、場内の興奮の有様は体中がしびれてしまうのではないかと思うほどものすごく、素晴しい経験となった。

成績は三位に終ったが、この遠征は私にとって、現在もなお強烈に瞼に焼きついて離れないのである。

試合中の筆者



左から宮永選手、村山コーチ、内藤監督、筆者、堺選手、森選手



エツコのバドミントン・ライフ⑥

チャンス到来、海外初遠征

栂野尾悦子

ひと通りのものは全部やってきたと思っていた私の前に、毎日、新しいトレーニングや練習がくり広げられていくのには、驚きと同時に、バドミントンを極めようとすれば、測り知れないほど無限であり、奥深いものであることを日々納得していくようになりました。

ここに、忘れられないトレーニングを一つ紹介しておきましょう。全面のフットワークです。ラケットを持たず、両手を頭の後ろに組んで、前後へ行った時、わざと上体の振幅を大きくしてフットワークする、脚力と、背筋、腹筋の強化を狙ったものでした。初日は2分。2～3日して5分。5分といってもつらいですね。その次は10分。一週間して、急に30分になったのです。休まず30分。この頃には、2kgの鉄アレーを頭に持ってです。30分のうちに何度、鉄アレーを投げ出したくなったことか。そして、しばらくして魔の一時間を宣告されたのです。長い長い一時間。全身の力がだんだん腰から足へと下がっていくのです。一歩の重いこと重いこと。目の前がふっとぎれそうになっても足だけは止められません。何としても最後まで……とやっているうちに時間の感覚さえなくなってしまいます。しかし回を負うごとに、その一時間が短く感じられ、足もわずかながら、しっかりと速く動くようになっているのです。



日の丸もあざやかなユニフォームを手に

このフットワークの時間になると高校生も帰ったあとで、静かな体育館のコートにコンブ（相沢マチ子さんの愛称）と二人きりで、向かい合って、自分が苦しくなると、相手に声をかけては、お互いに励ましたものでした。「ヤメッ」という一声が価千金の思いでした。このトレーニングの名前は「シェーバン」。

練習が終わると、必ずミーティング。いつもの喫茶店で始まりやす。先生と私達、そして、コーチに来て下さる人達を交えて。ノートには、むずかしくて理解しにくい物理、科学、美術、音楽、歴史のことなど、次から次へと書き並べられ、結局最後には、ちゃんとバドミントンにつながってゆく不思議さに、きつねにつままれたような気分になることも

たびたびでした。それからいつもの最終バス。食べざかりの私達は、家に着くまで待ちきれず、チョコレートやおせんべいをパクパク、モグモグ、その上に歌ったりして、恥ずかしげもなく毎日くり返していたのです。夕飯は十時半すぎ。お風呂に入ってからやっと自分の時間。もう一度ノートを広げて、先生から教わるものを一つものがすまい、忘れまいと、さらに自分の反省や感想も書き加えられていきます。

時には、コンブと頭を寄せ合い、コートをいくつも書き、ダブルスの動きやパターンを反省したり、考え出したりして意見の交換をしました。真夜中の密談です。

大学に入って半年、海外遠征という思いもよらぬ幸運がめぐってきました。まだ18歳でした。マレーシア、シンガポールのオープン戦に出場するための二週間の遠征でした。〝外国〟それだけでも、一度は行ってみたい魅力あるひびきなのに、そのうえ、バドミントンの試合にいけるというので二人とも、一段と練習への意気込みを見せたのです。かいもくわからない熱い土地のことや、食べ物の心配、初めて外国の一流プレーヤーとの手合わせ。それらは不安というよりもまず未知のものへの挑戦という気持でした。一ヵ月も前からこまごまと荷物の用意を始め、毎日少しずつ先生から英会話の勉強をしてもらったのです。

さて、10月初旬、いよいよ出発の朝、両親や兄弟、友人に見送られ、毛利（清志）先生以下、小島（一平）さん、西野（一征）さん、高木（紀子）さん（現中山夫人）、湯木（博恵）さん、そして私達の一行七名は、クアラルンプールに向けて飛び立ったのです。初めての空を飛ぶ気分は何ともいえないものです。こわさと優越感と。さまざまに変わる雲の形に目を凝らして7時間余り、とうとう異国の地に到着したのです。空港いっぱいに赤く夕焼けが広がり、やしの木々が美しいシルエットで出迎えてくれたのです。ホテルに着くまでの車中、右や左と目をキョロキョロさせながら、日本とは違う、ああここがマレーシアなのかと一人ぶつぶついってたのです。



2年生のとき、国際学生女子団体優勝（左から、小飼監督、堀川さん、相沢さん、わたし、小片さん）

マリンホテルはブルーで統一された一人部屋で、どうしていいかわからず心細くて、どちらからともなく集まって時間をかせいでいたのもおもしろい思い出です。

翌朝、クアラルンプールからさらに一時間のペナンという小さな島へ。ひと休みしてひと汗流そうということで、午後二時ごろ、女子でランニングに出かけたのです。びっくりしたのはペナンの人々で、何か大事件でも起きたのかと、あちこちの家から外へ飛び出してきてむらがってくるのです。ここは熱い国。そう、カンカン照りの日中に働く人なんていないのです。皆、昼寝の時間だったのです。

試合も夕方六時から始まり、日本のように格式ばった開会式もなく、いつの間にか試合が始まっているのです。レジャーが少ない国だけに、人々にとってスポーツの試合は、映画でも観るような絶好の催し物なので、サンドイッチやポット持参の人もいるくらいで、三面の小さな体育館はあふれるばかりです。大会三日目ぐらいの頃、スコールといえば日中ですが、夜になって大雨が降り出し、体育館の床に雨が流れ込み、試合は中止になり、明日に持ち越し。こんなのんきなことも、しばしばあるらしいのです。

さて、試合はといえば、シングルス二回戦で、当時全英チャンピオンのエバ・ツェドベリ（スウェーデン）に敗れ、ダブルスは運よく決勝へ進出できたのです。対戦相手は、高木・湯木組の日本同志となったのです。

（つづく）

この感激を知らせたい

われらのクラブ⑦

春日部家庭婦人クラブ

原　郁子

真のバドミントンを目前にして私の心は陶酔し、感激で震えました。そしてその感動は過去にシャガールの数々の名画を観賞した時と同一のものでした。

ラケットを使用しないトレーニングの時、栂野尾選手が腕を大きく回せば、その姿はおのずと、ロングサーブを連想させてくれます。そしてそれ以上に、体を曲げたり、そらせたりするポーズの一つ一つは姿・形が美しく、その美しさに魅せられて呆然とする私の目には、いつしか白鳥の湖のオデット姫の舞い姿が重って映っていました。

「ショートサーブ、これは私も苦手なんです」とさらりと言って、シャトルコックを打ち続ける栂野尾選手の顔には、終始温かい笑顔が浮かんでいました。

バドミントンを愛する私は、この素晴しい講習会に参加して、初めて本当のバドミントンに出会う事ができたように思われました。

素晴しい講習会

去る七月十七日の読売新聞紙上に「バドミントンの女王がコーチ」と題し、私達春日部家庭婦人クラブの活躍ぶりが掲載されました。ここに言うバドミントンの女王とは、もちろん日本が世界に誇る栂野尾悦子選手、その人のことです。

この講習会は、私達のクラブが結成されてわずか一周年目に当る月でしたので、私達クラブ員一同が栂野尾選手の一挙手一投足に目を見張ったことは申すまでもありません。

体操、基本ストローク、そして模範試合が午前十時から午後二時までにわたって展開されていきました。

クラブを結成して

昨年の七月一日、私達のクラブは結成されました。

市主催の二ヵ月にわたるバドミントン教室が終ると同時に、このまま続けたい一心でクラブ結成の話がもち上り、当時二十九名の婦人達が賛同しました。思えば、全員が全くバドミントンに無知であったからこそ、技術的な問題ではなく家庭の中にスポーツの健康さと機敏さをもちこみたいという、ただそれだけでこの話に乗り気であったようです。

クラブとなった私達は、市のクラブ育成助成金をいただきシャトルコックを買い揃え、体育館の無料使用許可等を受け、全く恵まれた環境でした。

しかしバドミントンに対する専門的知識もなく、それより第一に、気ままに主婦が集まってつくったクラブの運営というとほうもなく大きい壁を目の前にしていました。その障害の一つ一つをここにこまごまと書く必要はないでしょう。一つだけ記しておきたいことは、クラブとなって予期もしなかったそれらの壁にぶつかっていくことによって、バドミントンの本当の魅力を再発見したのです。

私達のママさんバドミントンは技術的にも体力的にもたいへん劣っています。しかし、バドミントンを通じてさまざまな体験をし、たくさんの人との出会いがあり、思いがけない事件への遭遇があり、そこから感じ、学べ

るものは大きいのです。私達は一個の人間であると同時に家庭を守る主婦です。バドミントンを通じて家庭をより内容のあるものにしたいと切に望んでいます。

結成から半年の間、私達には悩みが一つありました。それはコーチがいないことです。教室で初めてラケットを持った人が大半でしたから、練習日には教室と同じ形式で行い、ショートサーブ等は、本を読みながら、足の構え方やラケットの振り方を、本の説明に基づいてやったこともありました。

練習が重なってくると、素振りや準備運動の必要性がいたく感じられてきて、お互いに相談して盛り上げてきました。

その年の秋に、市内大会でダブルスがあるから参加するように勧められ、正式な試合の経験等まるでない私達でしたから、はたして何人が参加できるか不安が先に立ちました。それでもクラブを認めてほしい気持が会員の中に芽ばえ、参加することの意義だけを胸にかかげて、二十名が参加できたときは、やれやれと一安心でした。

そしてその後の全体会（反省会）では、参加した全員が、参加することの意義を悟り、各々が新たな希望を持ったのでした。クラブを心配する心は、ここに小休止でき、クラブ結成の意義は自己発展につながり、果たされていたのです。

今年の春になって、任意団体であった私達は、市のレクリエーション協会に属しているバドミントン協会に加入することができました。協会の理事長である唐沢先生に、何よりも先に相談したことは、コーチの一件でした。

「それでは、経費の関係上、無料で来てくれる人を探してみましょう」

そういう先生の返事に、私達は期待を託したのでした。

✤やっとめぐりあえたコーチ

五月の一週目に待望のコーチは体育館に現われました。

コーチの名は、富橋末治さん、バドミントンが好きで大宮にバドミントンとテニス専門店のラケットショップを経営され、県のバドミントン協会の理事をつとめるファイトのかたまりといった感じの人でした。

技術が全く初歩の段階である私達は、コーチから試合中、練習中のマナーについて指導を受けました。家庭の主婦でありながら、スポーツマンシップを多少なりとも会得できることに心は豊かでした。

練習方法も前とは一変し、クラブの中は生き生きとして、コーチを中心に動きます。練習が終って帰る仕度をし、もう少し練習していたい欲望をおさえながら体育館を後にするとき、会話は自然とさっきの練習の反省になります。コーチの横顔を見ながらに話の花が咲き、会員がコーチに寄せる信頼度は深いものです。

✤これからもずっと

技術向上を計り、健康増進のため、そして市内在住の婦人達が自己を鍛錬しながら明るい家庭を築き、ひいてはそれが町や市を明るく支える。こういう目的のためにも、バドミントンを愛するが故に集まった会員は、それを実現させながら、前向きの姿勢で助け合えることと信じます。

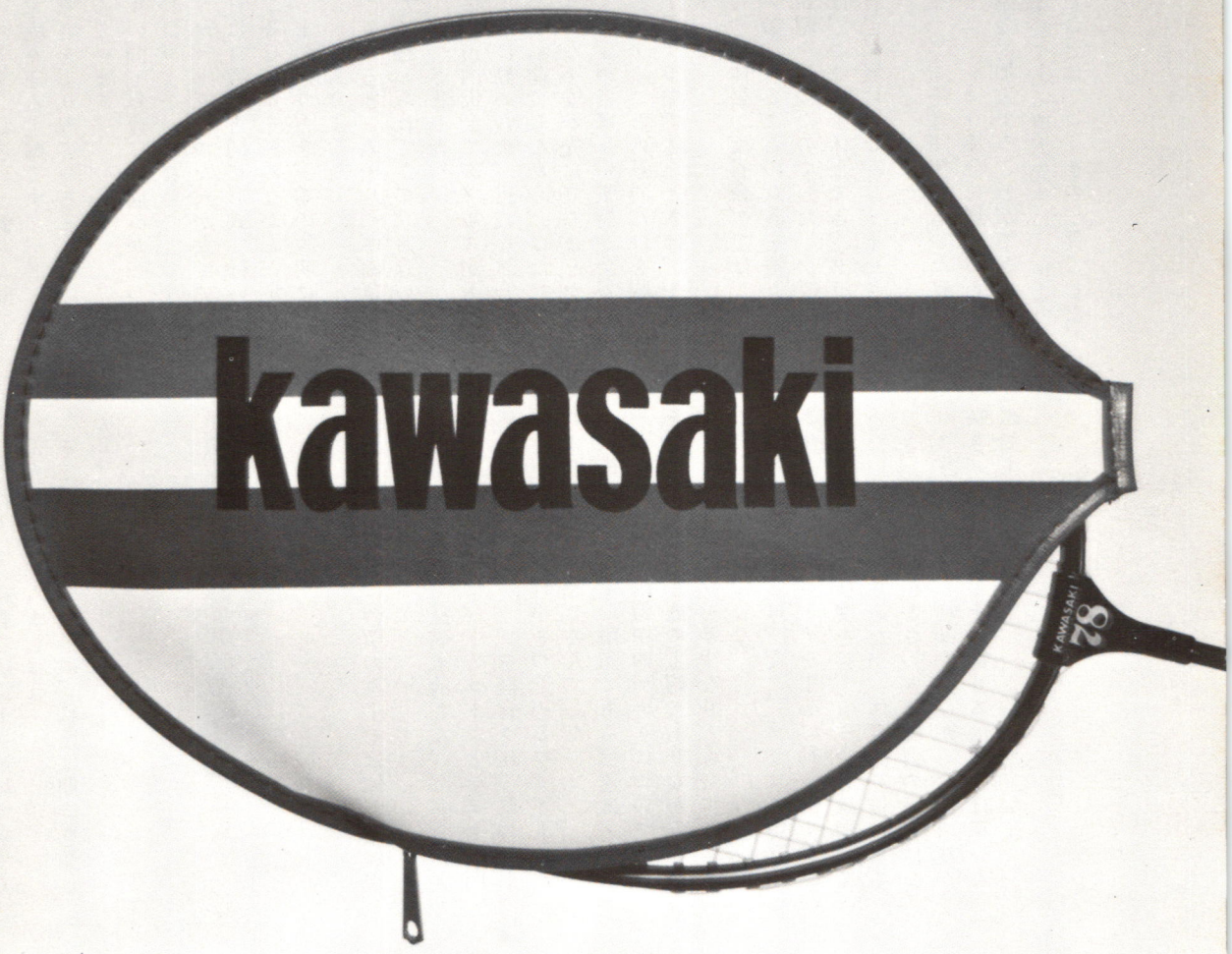
結成して一年と一ヵ月経った現在、会員は、七十名にふえました。コーチを中心に明るく、各々の持つ謙虚な態度、そして学びつつあるスポーツマンシップでクラブの中は、去年の細々と歩んだ頃のことを忘れたかのように、まさに理想そのものです。

今一つの希望は、技術向上を計りたいところです。

「ピシッ」とシャトルコックを打つ響きが、私の体内を通って体育館に響き渡る。その瞬間の神秘的な感激を、まだ知らない婦人にも味わわせてあげたい思いです。

カワサキラケット
河崎ラケット工業株式会社

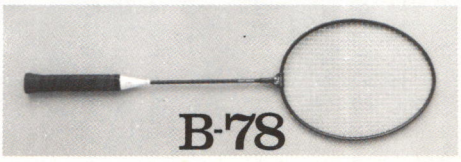
ドラマが始まる。



世界が燃える。

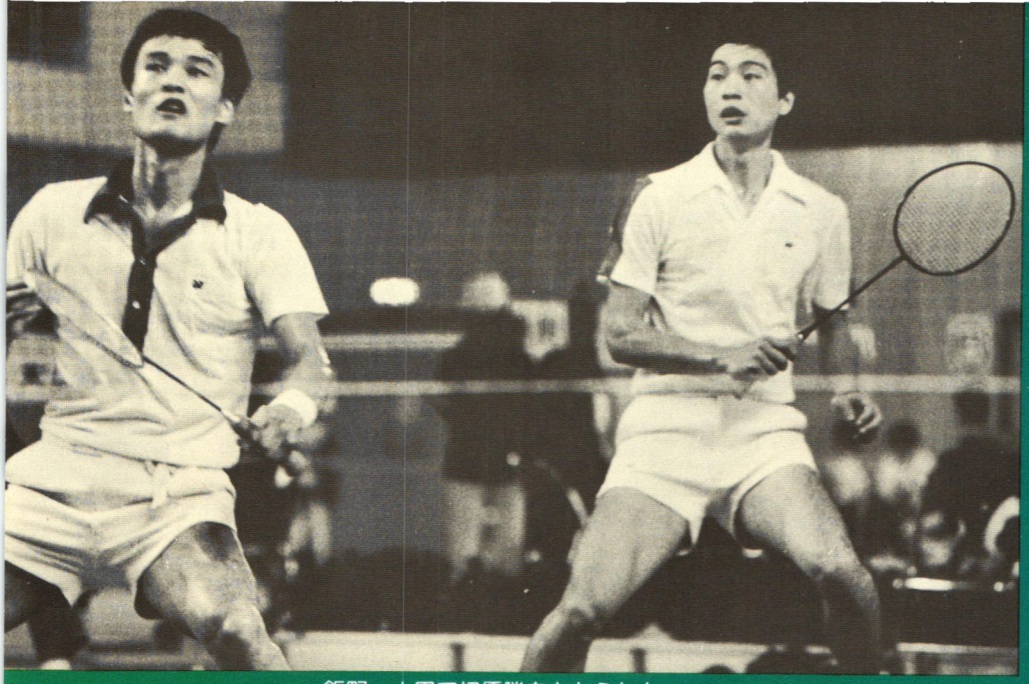
イギリス、デンマーク、インドネシア…
世界のコートで実力を発揮し、活躍するカワサキ。
数々の勝利のドラマを生み、
トッププレーヤに注目され続けています。

アルミ、クロームモリブデン、アルミ合金ダイカストを採用。
それぞれの特性を充分いかした軽く、弾力性豊かな新製品です。

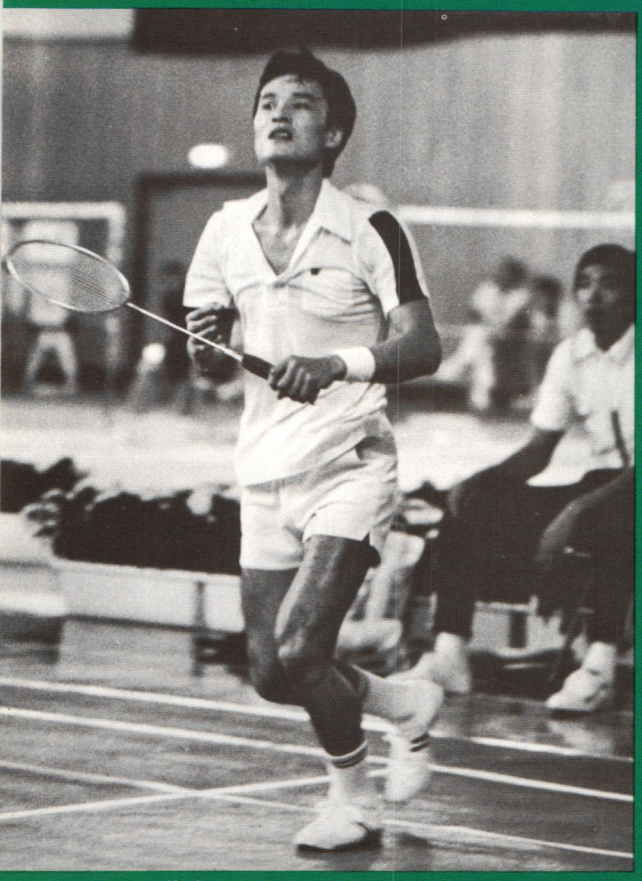


No.B-78/セブンエイト/モスグリーン(アルミフレーム)
フレーム価格6,000円(ケース付)

〝あすなろ国体〟から爆発した〝若さ〟

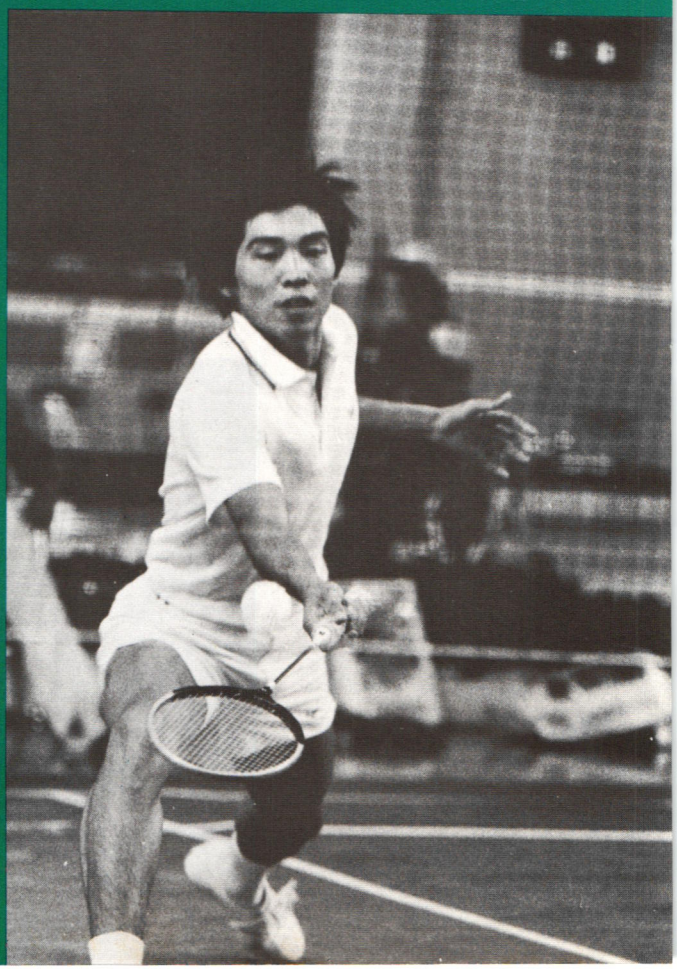


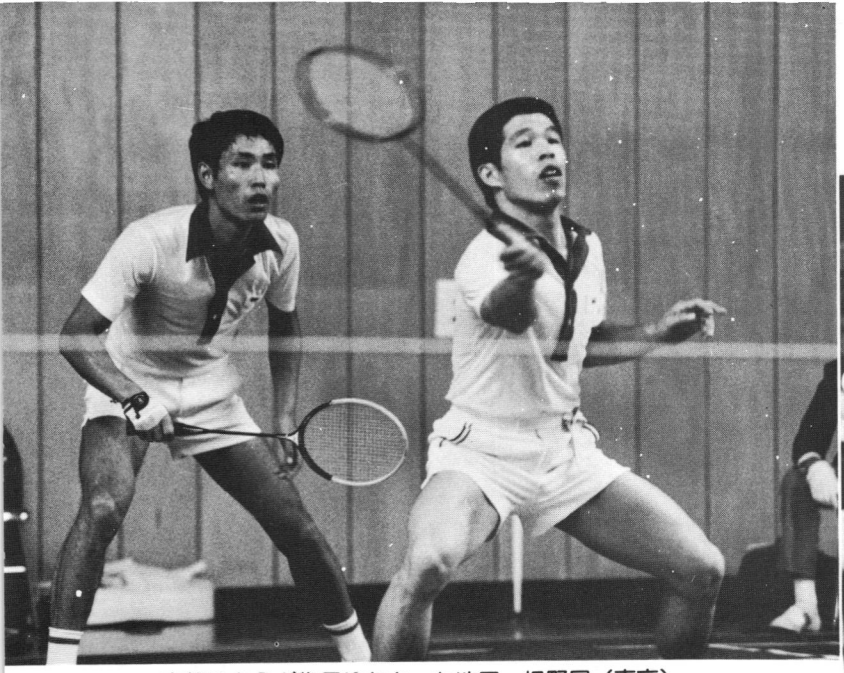
飯野・土田で初優勝をもたらした



単複ともに大活躍の土田（埼玉）

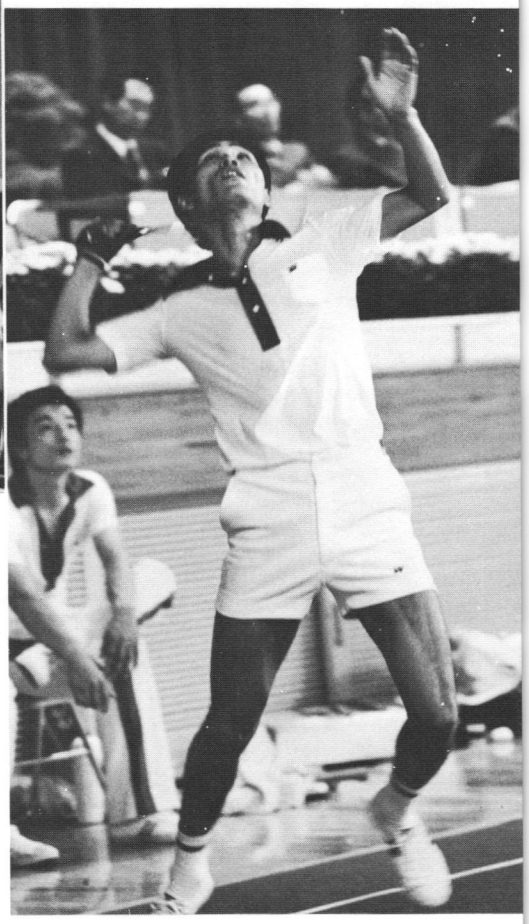
決勝でも東京に１ポイントをもたらした銭谷





攻撃のさえが物足りなかった池田・柵野尾（東京）

シングルスでも好調なところ
を見せた柵野尾（東京）





緩急自在のダブルス小島・辻（神奈川）

笠井（神奈川）もよくがんばった



ファッショナブル・スポーツ——バドミントン。

厳選された豊富さでお応えいたします。 BADMINTON

ファッション性とスポーツ性——この2つをより合わせ持つファッショナブル・スポーツーバドミントンの感覚を肌で感じにいらっしゃいませんか——！

色あざやかにそして機能性も豊かなウェアやバッグなど——バドミントンのすべてが常にフレッシュな状態でスタンバイ。

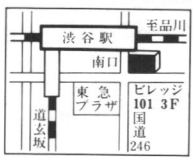
日本最大の専門店 ウインザー ラケットショップ。

毎月曜日定休・祝祭日を除く

渋谷店

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3階) TEL 03-464-9251~2 〒150

●営業時間／午前10時～午後7時30分





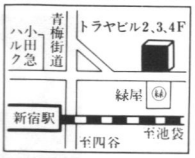


毎月曜日定休・祝祭日を除く

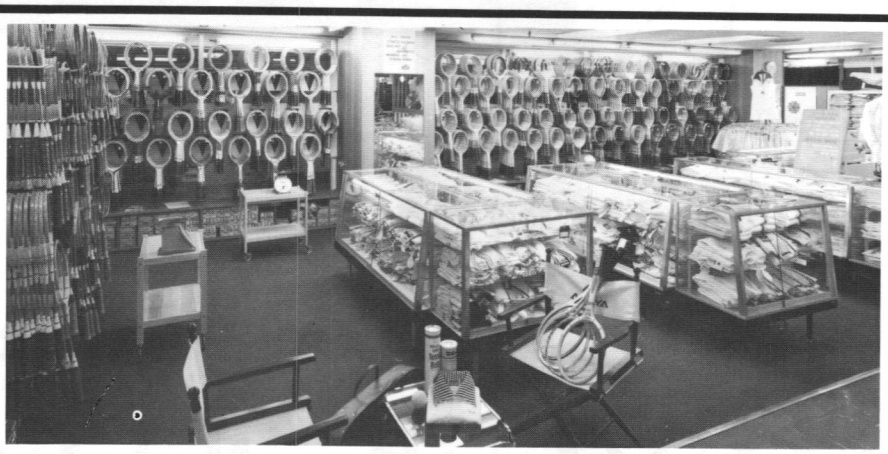
新宿店

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2,3,4階緑屋前) TEL 03-363-6848 〒160

●●●営業時間／午前10時～午後7時





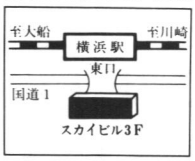


年中無休

横浜店

横浜市西区高島町2－1 横浜駅東口(スカイビル3階) TEL 045-461-1785 〒220

●●●営業時間／午前10時～午後8時



WINDSOR RACKET SHOP

from carlton England

1,000,000ダース

カールトン・ナイロンシャトルの年間生産量です。

ニュートーナメント

1個
¥280

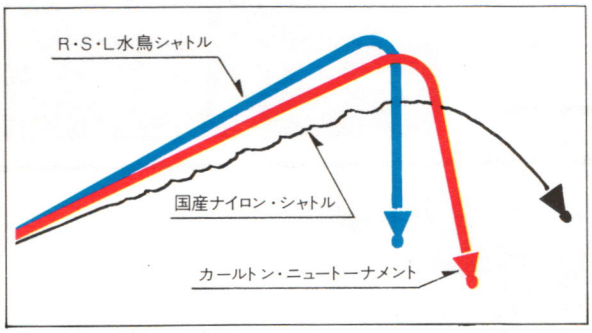


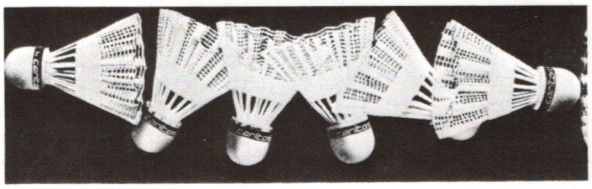


インターナショナル

1個
¥220

だから、こんなに安い価格で輸入品がお求めになれます。





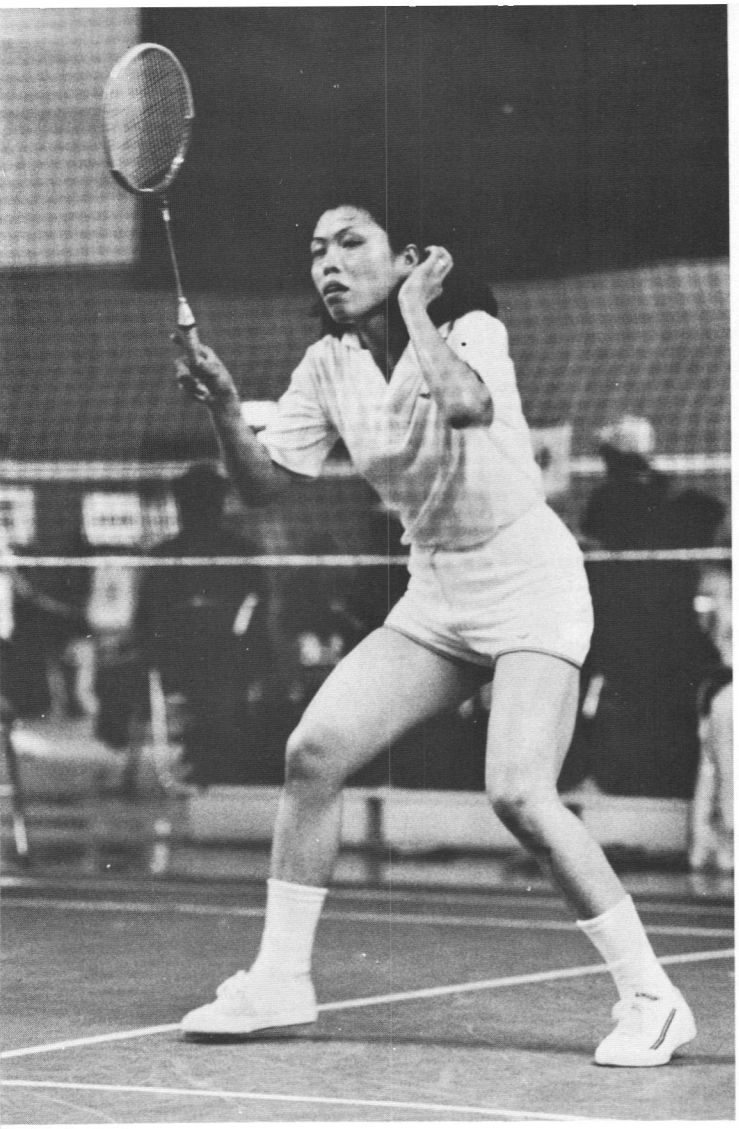
ニュートーナメント：ターンオーバーがはやい。

左の図は、シャトルの飛行線を表わしたものです。カールトン・ニュートーナメントが水鳥シャトルの飛び方にいかに酷似しているか、おわかり頂けると思います。

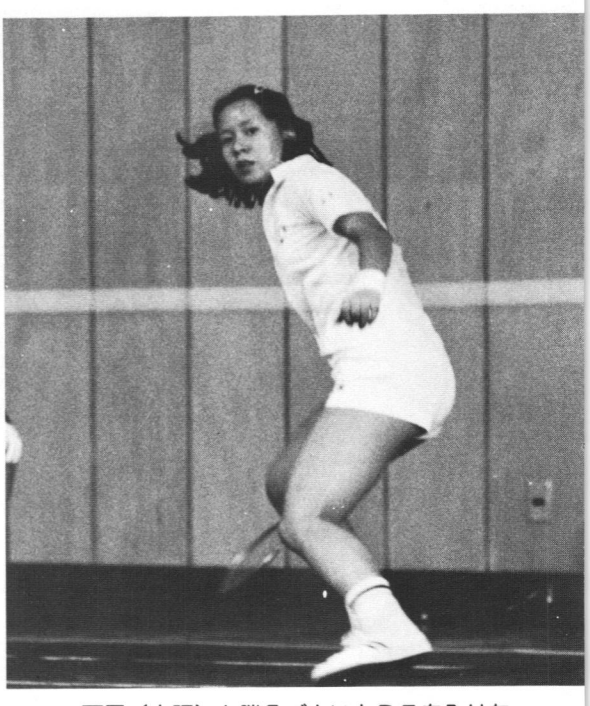
しかも、国産品とは飛びが違います。

総発売元 メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

だからシャトルコックならカールトン



さすが〝女王〟の湯木（東京）



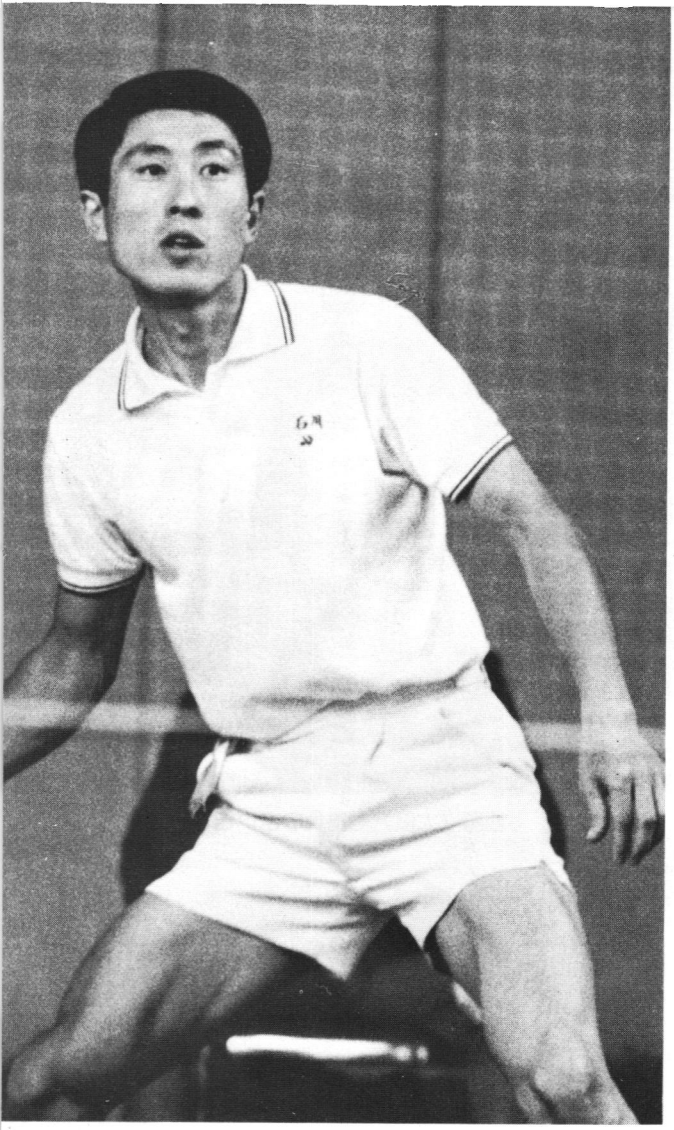
西尾（大阪）も勝負づよいところをみせた



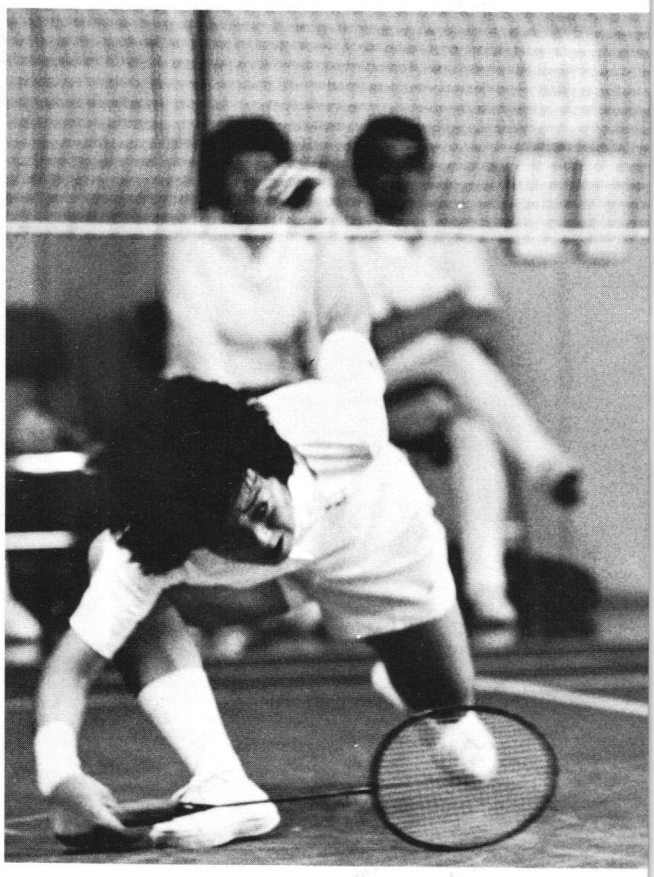
地元の期待を集めてがんばった松田（青森）

湯木と組んでイキイキと走った池田(茂)（東京）



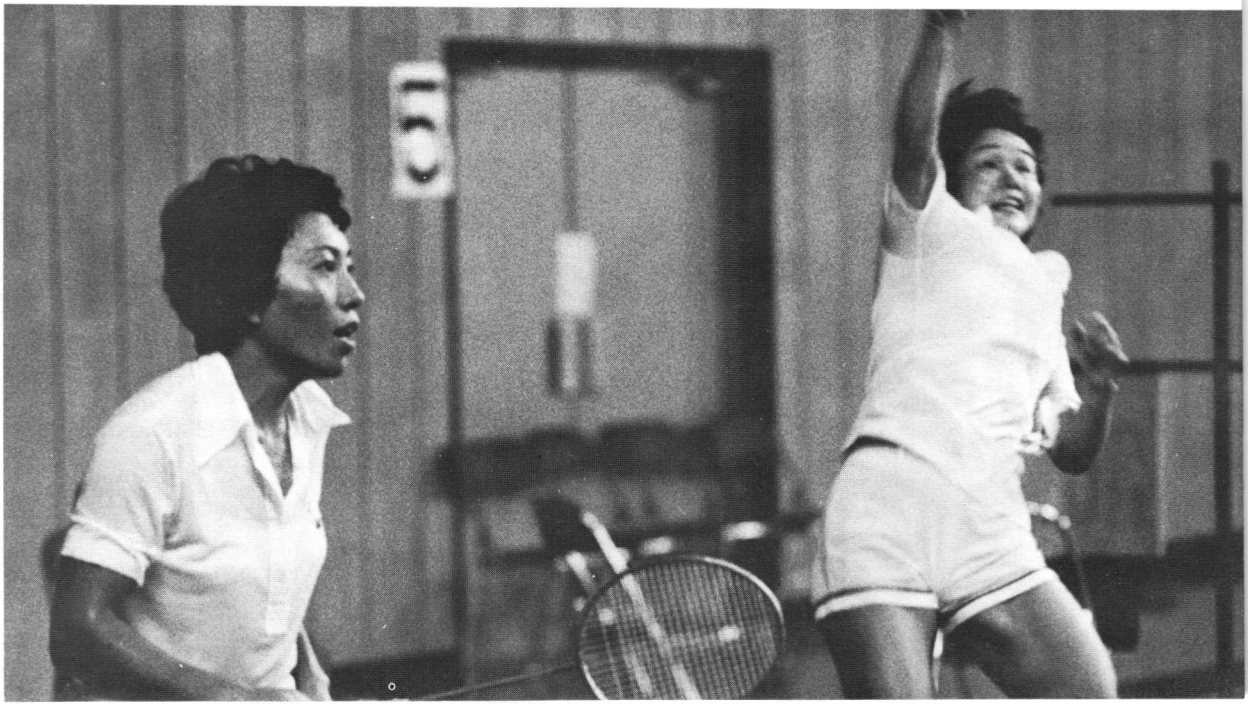


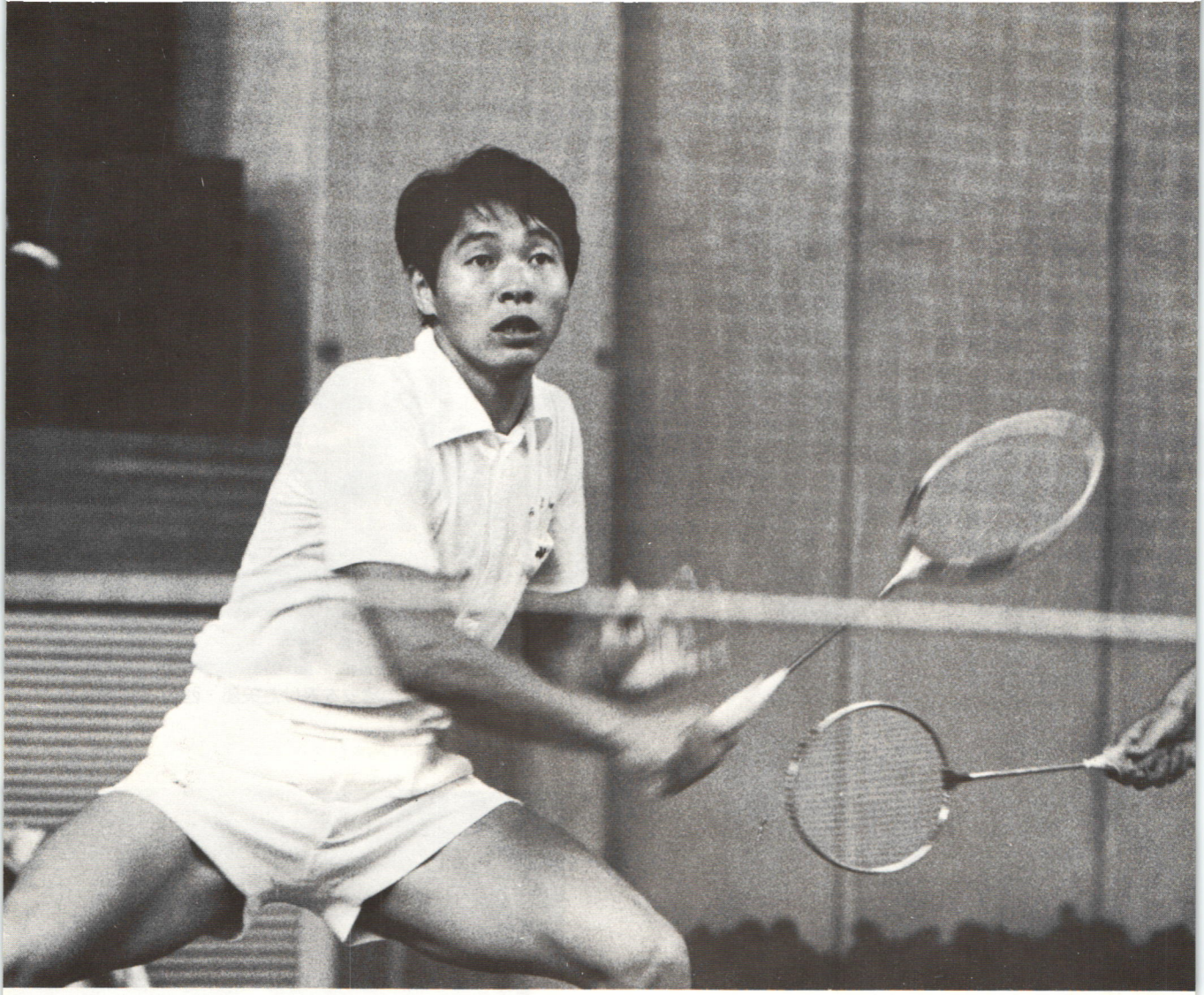
小さい体を思い切り使った牛田（香川）



した

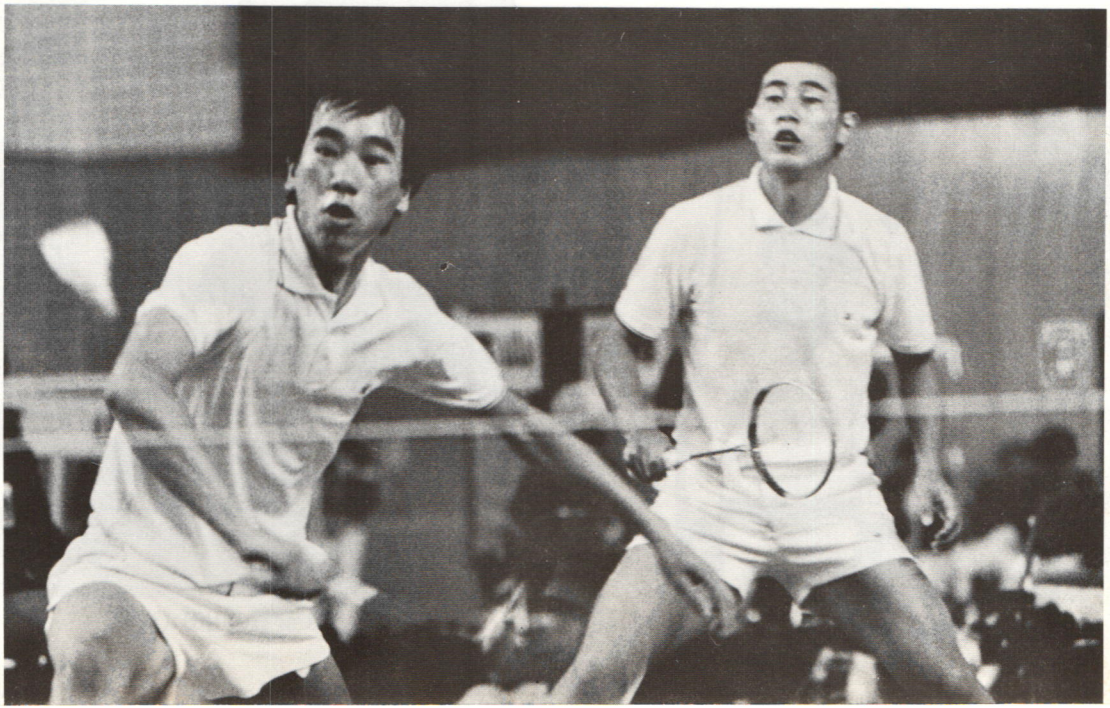
ダブルスで健闘の谷・秋本(幸)





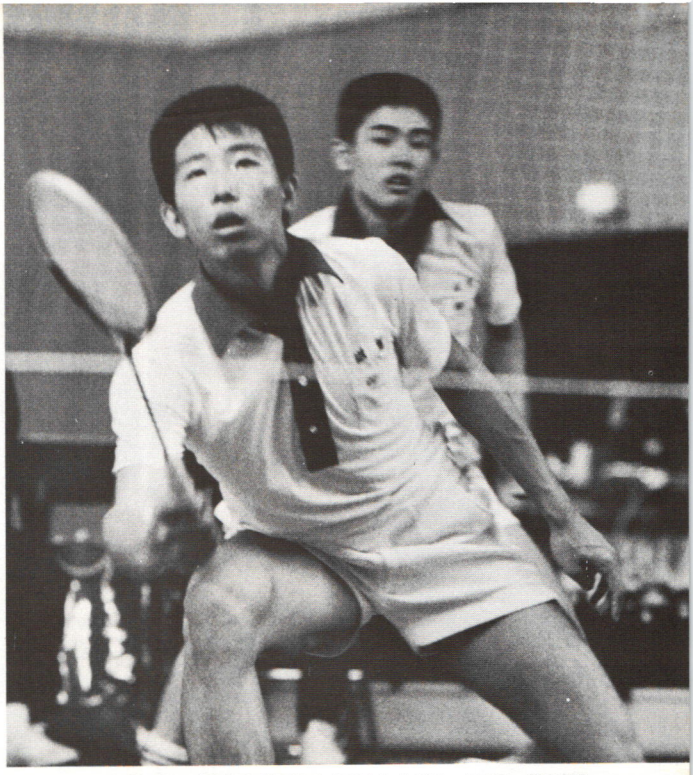
長谷川・舛田の新コンビは石川の勝利を不

惜しくも2位にとどまった今井・栗原（群馬）





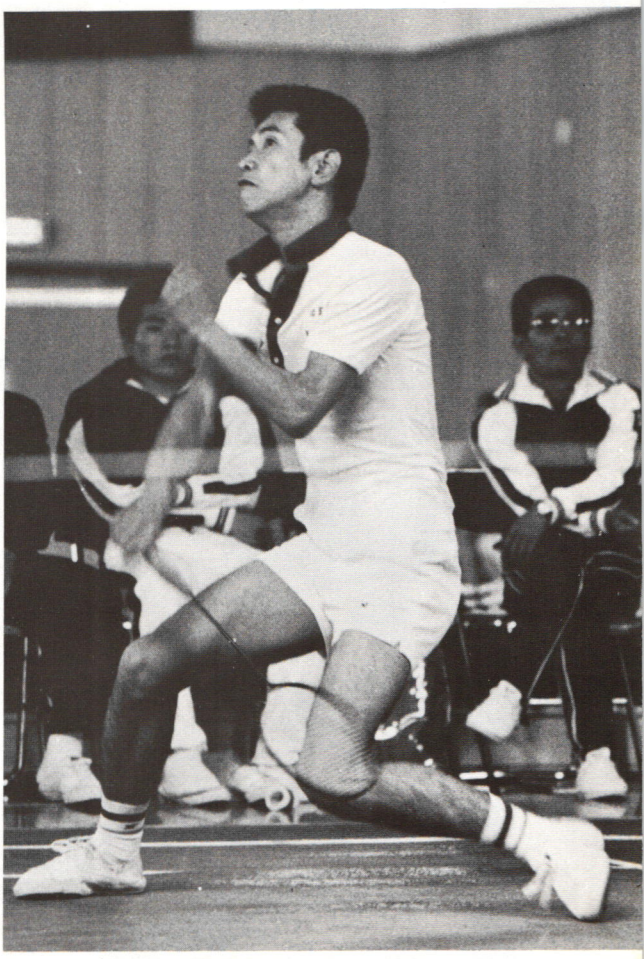
第１シングルスの責任を果たした原口（大阪）



熊本・栃木の猛攻を退けた矢部・西山（滋賀）



大阪少年女子チーム



シングルスで健闘の山田（滋賀）

carlton

New Badminton Racket



●PHOTO カーボニック・ブラック

●PHOTO ニュートーナメント



威力壮烈!

20世紀最後の素材といわれる理想の繊維カーボン。繊維に対して直角の方向に、驚ろくべき強さをもち●たわみに富む●するどい弾性とすばやい反発力を生む●しかも耐久性に強い……という最高の条件を備えています。

metro

総発売元 メトロレジャー株式会社 〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

1978年全英選手権、デンマークオープン、視察団募集中！

旅行期間：昭和53年3月6日(月)～3月20日(月)…〈15日間〉

総費用：￥398,000（概算）

このたび日本交通公社海外旅行新宿支店では、上記バドミントン視察団を企画いたしました。

世界の檜舞台で活躍する日本選手団を応援し、あわせて全世界の優秀選手のプレーを観戦する絶好の機会かと存じます。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

ご　日　程

日次	月　日(曜)	地　名	現地時間	交通機関	予　定
1	昭和53年 3月6日(月)	東　京発	夜	航空機	（機中泊）
2	3月7日(火)	コペンハーゲン着	朝		着後：コペンハーゲン市内見学（コペンハーゲン泊）
3 ～ 6	3月8日(水) ～ 3月11日(土)	コペンハーゲン			デンマークオープン観戦 （コペンハーゲン4泊）
7	3月12日(日)	コペンハーゲン発 パ　リ着	午前	航空機	着後：パリ市内見学（パリ泊）
8	3月13日(月)	パ　リ			終日：自由行動
9	3月14日(火)	パ　リ発 ロンドン着	午前	航空機	着後：ロンドン市内見学（ロンドン泊）
10 ～ 13	3月15日(水) ～ 3月18日(土)	ロンドン			全英選手権観戦 （ロンドン4泊）
14	3月19日(日)	ロンドン発	午後	航空機	（機中泊）
15	3月20日(月)	東　京着	夜		着後解散

御旅行条件

○総費用にふくまれるもの

(1) 全行程エコノミークラス航空運賃
(2) 各地における空港／ホテル間の特別バス運賃
(3) ご日程に記載の各地市内見学バス、ガイド料金、入場料金
(4) 各地における一級ホテルの2人室（原則としてバス・トイレ付）にお2人の宿泊料金および税・サービス料金
(5) 毎日のホテルにおける朝食および市内見学時の昼食料金
(6) お1人1個づつのスーツケース運搬料金（20kg）
(7) 団体行動中のチップおよび空港税

○総費用にふくまれないもの：

(1) 海外渡航に要する費用：印紙代、予防接種、旅行保険、手数料
(2) 上記の食事条件にふくまれない食事および全行程のお飲み物代
(3) その他個人的性質の諸費用（チップ、電話、クリーニング代など）

○全行程に渡り添乗員がお伴して、ご斡旋致します。

※募集人員は25名と致します、尚、お申込み金・お取り消し料・締切日等につきましては、別途御用意するパンフレットを御参照下さい。

御注意：上記費用は昭和52年4月現在の航空運賃及び地上費用に基き算出してありますので変更する場合がございます。

：上記日程は日本選手団の試合日程により多少変更する場合がございます。

お問合わせ及びお申込みは

〒160 東京都新宿区西新宿1-18-8スカイビル内
㈱日本交通公社海外旅行新宿支店

担当「1978年バドミントンヨーロッパ視察団」係
木本グループ．大野．井上　Tel：03-346-0179

主催：㈱日本交通公社海外旅行新宿支店

錶谷欽治クン　相沢マチ子さんと結婚



新婦みずからデザインしたパンツスーツを着て披露宴はクライマックス



新婦の入場



地元テレビのTVライトを浴びながら、緊張したおもちの新郎・新婦

本文44ページもごらんください



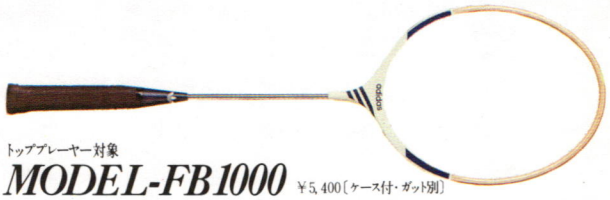
好評発売中

BADMINTON RACKET

スポーツシューズを始め、スポーティンググッズの幅広い分野で今や世界を独走するadidas®。そのスポーツを知りぬいたadidas®の本格バドミントンラケットが今、多くのファンを集めています。素材の持ち味をくまなく生かした各パーツ。バドミントンを徹底科学した機能的なフォーム。もちろん一流プレーヤーの『ここをこうしたい』という熱望をすみずみに取り入れたadidas®。パワーとテクニックを見事に両立させた最新鋭の1本1本、いち早く馴染むのがライバルを泣かせる秘訣。

バランスの良さ。なじむグリップ。この軽さ。デビューが待たれたadidas®の1本1本。





トッププレーヤー対象

MODEL-FB1000 ¥5,400〔ケース付・ガット別〕

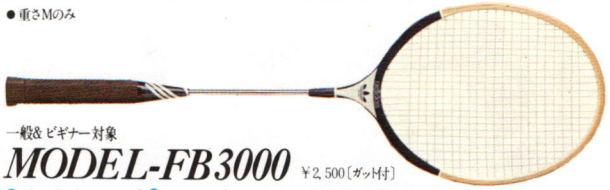
⊙テーパードシャフト先細・手元太でロングなシャフト。思いきり振りきれ、素晴しい球離れが特長です。⊙フレーム 柔軟性と剛性をあわせもった合板フレーム。ガットが張りやすく、同時にガット張りによる変形がないのが決め手です。素材は特に厳選された高級木質材。⊙グリップ 手にしっくりと馴染む高級牛皮グリップ。●グリップサイズG2(太)・G3(中)・G4(細)●重さ〔ガットなし〕L〔120g以下〕M〔130g以下〕H〔130g以上〕



プレーヤー&一般対象

MODEL-FB2000 ¥3,400〔ケース・ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム やはり強度と柔かさを兼ねそなえた合板フレーム。吟味された高級材質の堅さがラケットの変形を防ぎます ⊙グリップ 牛皮を使用し触感、密着感に優れています。 ●グリップサイズG3のみ ●重さMのみ



一般& ビギナー対象

MODEL-FB3000 ¥2,500〔ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト⊙フレーム 丹念にセレクトされた木質素材の合板フレームで強度を確保しました。⊙グリップ グリップには手に馴染みの良い牛皮を使用● グリップサイズG3のみ● 重さMのみ

adidas®

MADE UNDER ADIDAS LICENSE

adidas

●お求めはadidas特約店で。

製造業者 KG 兼松江商株式会社 発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431 〒101 東京都千代田区内神田1-11-13(橋本ビル) ☎03-295-5611





本誌別冊カレンダー

デザイン一新　好評発売中

定価1000円（荷造送料200円）



毎年ご好評をいただいております本誌別冊カレンダーが今年も発行されました。一昨年はモノクロ、昨年はカラーで制作いたしましたが、今年はモノクロ写真を使用し、日付の部分にブルーとグリーンを配したしゃれたものです。しかもグラフィックデザインでは第一人者の野間義剛さんのレイアウトにより、迫力の点でもすばらしい出来ばえとなりました。製本はアクリルリングによるタンバリン綴じを採用し、破ることなくご使用になれます。

サイズは本誌の４倍で、上質のケント紙を使用し、お部屋のアクセントになるでしょう。収録選手は次のとおりです。

１月＝柵野尾悦子・植野恵美子、２月＝小島一平、３月＝スヴェン・プリ、フレミング・デルフス、４月＝土田証雄、５月＝ベント・フローマン、トーマス・キールストロム、６月＝池田信孝・柵野尾昌一、７月＝チユン・チユン、ヨハン・ワジュディ、８月＝徳田敦子・高田幹子、９月＝飯野佳孝、10月＝銭谷欽治、11月＝長谷川博幸、12月＝湯木博恵

現在好評発売中で、定価は1000円（荷造送料200円）です。ご希望の方は、はさみ込みの振替用紙に必要事項と通信欄に「カレンダー○部申込み」と明記して、代金（送料を添えて）をお近くの郵便局からお振り込みください。

〒150　東京都渋谷区神南１－１－１　岸記念体育会館

バドミントン界編集部

高校は韓国が上!?

男子　比叡山高校
女子　四条畷学園　ともに敗れる



両国選手・役員そろって

25日、YMCA体育館にて開かれた第10回韓日男女バドミントン交歓試合第一次戦で、韓国は男女とも日本を圧倒した。男子の部で、水原の水城高は、日本の比叡山高を3対2で痛勝した。女子の部の馬山聖旨高は、日本の四条畷学園高を5対0のストレートで完勝した。

このように、8月26日付〝デイリースポーツ〟紙は、第10回日韓高校バドミントン交歓競技会の模様を報じています。

日本選手団は団長・青木昭二氏、男子監督・藤上良信氏、女子監督・片岡輝明氏、以下男女各5名の編成で、8月24日、羽田を出発。25日の第一戦に続いて、26日に第二戦を行ない、27日の市内観光など日程を無事終了して28日に帰国しました。ここに全記録と選手団のミーティングでの声を報告いたします。

〈第1戦〉

○男子の部

比叡山高校							水城高校
矢部忠司	15	15	15	2	18	15	孫　承國（2年）
西山博司	2	15	15	2	15	15	金　明陳（1年）
山田和樹	1	2	2	15	9	15	李　在福（3年）
沢口達哉	0	2	2	15	15	15	崔　乘學（2年）
西山博司	2	15	15	4	15	0	孫　承國（2年）
保科正浩	0	5	6	15	6	15	李　在福（3年）
山田和樹	0	1	9	15	15	15	崔　乘學（2年）

○女子の部

四条畷学園　0
平久美子　河村茂美　0
末兼真弓　北田スミ子　1
原口恵子　0
平久美子　1
河村茂美　0
2—15　15—5　16—18　10—12　3—11　11—8　15—5
4—15　2—15　18—16　12—10　11—3　8—11　5—15
聖旨女高校　5

姜　幸淑（2年）
黄　善愛（1年）
2
韓　善姫（3年）
甘　明淑（1年）
2
姜　幸淑（2年）
2
黄　善愛（1年）
2
甘　明淑（1年）
2

〈第2戦〉
○男子の部
比叡山高校　3
矢部忠司　西山博司　2
山田和樹　沢口達哉　0
保科正浩　0
西山博司　2
沢口達哉　0
平久美子　河村茂美　2
15—6　15—9　12—15　8—15　15—5　15—5　15—8
15—15　15—9　15—9　15—10　15—6　15—8　8—15
選抜チーム　2

崔　京桂（3年）
0
金　炳植（3年）
2
金　永萬（3年）
金　重珠（2年）
2
金　栄福（3年）
2
李　在福（3年）
1
金　銀姫（3年）
陳　成玉（2年）
1

○女子の部
四条畷学園　3
選抜チーム　2

崔　京桂（3年）
2

ミーティングから

基礎体力と持久力の差

北田　ヘアピンが確実である。足がいいのでフェイントにもかかりにくく、ネット前で余裕を持ってプレーしているように見える。

保科　韓国選手は試合に対する気力がすごい。常に勝つ気でぶつかってくるので、精神的に押されてしまった。

末兼　韓国は力もねばりもすごい。3ゲーム目でも15本取られるまであきらめず、最初と変らないプレーで押してくるので、ねばりに負けてしまう。

山田　韓国のプレーヤーは体力もあり、集中力もある。動きのスピードとタッチの速さになかなかついて行けない。もっとスピードをつける練習をしなければ追い越される。

原口　ネット前からの突きが非常に速いし、球のスピードも男子並みなので、いつも押されてしまう。

沢口　韓国選手は一球一球を大事にして、自

末兼真弓　北田スミ子　2
原口恵子　0
河村茂美　0
平久美子　1
15—11　15—3　10—12　10—12　12—11　3—11　3—11
3—11　11—12　4—11　11—12　11—11　3—11　3—11
0
2
2
2

金　李珠（2年）
具　京姫（2年）
姜　幸淑（2年）
金　銀姫（3年）
陳　成玉（2年）

本誌バックナンバーをどうぞ

バドミントン界は、わが国ただ一つのバドミントン専門月刊誌です。そろえて保存すれば、**「バドミントンの百科事典」**になります。この機会にぜひお申し込みください。

定価などくわしいことは47ページの一覧表をごらんください。

バドミントン界編集部

分からコート外へ出す球が少ない。前の動きが速く、手首も強く感じた。

河村　足が非常に強くて、ダブルス、シングルスともにスピードについて行けなかった。2年前にも韓国に来ているが、今年は少しあがった。

矢部　スマッシュの威力はそれほど感じなかったけれど、球が重くて打ち返しにくかった。足の動きが速く、上に飛んで打っているのが印象的だった。

平　日本選手と比べると体力がある。4試合中3度、ファイナルの試合をしているが、1ゲーム目は勝てるものの、2ゲーム目に力を入れられて負け、3ゲーム目頑張ろうとしてもクリアーで押されてしまう。テクニックより力で負ける感じだ。足の動き、持久力の差と思う。

西山　ダブルスではクロス球が多かったのでやりやすかった。シングルスではクリアーの配球、カットの使い方がうまかった。スマッシュに角度がある。技術的な差はないけれど持久力に差があると思う。

青木　昨年中国遠征したときの感じと、韓国選手の共通点は、足がすばらしくいつも羽根の下に来ている感じであった。それは常に足を使う生活をしているところと、日本のような車の生活との差である。トレーニングの方法と、テクニックでカバーするより仕方がない。

片岡　韓国では小学校の時からやっている選手が多く、基礎体力、運動の適正の点で日本人よりすぐれている。女子の中で、男子のプレーでしか見られない動きをすべての選手が行っている。根本的にスポーツに取り組む姿勢が異なる。韓国ではこの大会に備えて、1ヵ月の合宿生活をしている。日本とは大きな違いである。

藤上　足腰の強さとスタミナ（体力的、精神的）の差。ジャンプスマッシュした後の動きやねばりがすばらしい。また日本人であればバテると思われる動きが続いても最後まで動いている。日本の選手に必要なことは、何の苦もなく最後まで動ける体力をつけること。

平　やっぱり日本はいい国だなあと思う。生活など大変めぐまれている。

西山　日本はめぐまれすぎているので伸びないのではないか。

矢部　韓国の食生活ではいつもニンニクが入っているのでスタミナがあるのかな？

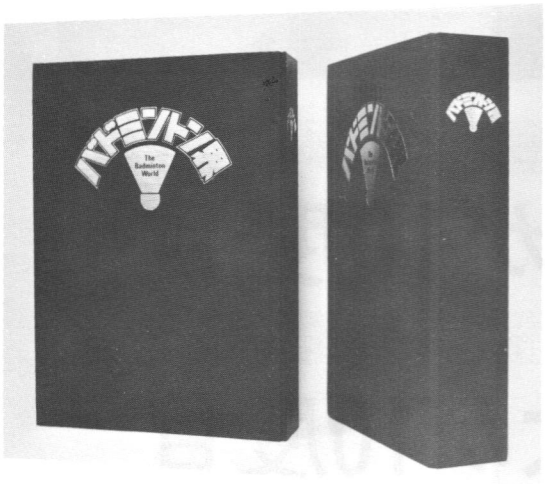
青木　社会科の勉強に体験以上のことはない。諸君達は本当によい勉強ができたと思う。国際的選手になるため、もっと自発的な行動をとれるように……。どこでも眠れること。なんでも食べられること。精神的にも強くなることを望む。

（敬称略）





飛行機の中で



バドミントン界専用

合本バインダー

500円

穴あけ不要、
かんたんに、
美しく保存

本誌１年分12冊を、穴をあけたり、ノリを使ったりすることなく、簡単に保存しておくことのできる専用合本バインダーができました。

今年は表紙の新しいデザインにあわせて、バインダーのデザインも変更しました。

写真のように、濃いブルーのクロスに銀パクを押したものです。

１冊定価500円ですので、ご希望の方は下記の荷造送料を加えて、はさみこみの振替用紙に必要事項明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。

荷造送料＝１冊300円、３冊まで600円、４冊以上700円。

〒150東京都渋谷区神南１－１－１　岸記念体育会館

バドミントン界編集部

男子は中大が18度目

女子は日体大が10度目

中大は圧倒的、日体大は０－２から大逆転

昭和52年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦は、10月1日から14日迄の5日間、江東区スポーツセンターを皮切りに、板橋区体育館との二会場で行なわれた。

男子は春についで中央大学が圧倒的な強さを示し、通算18回目の優勝を飾り、女子は日体大が通算10回目の栄冠に輝いた。

男女1部、最終日の成績は、次のとおり。

○男子1部

▽中大 4（D2－0 S2－0）0 日大

長谷川 2 — 西村 2 — 米山 2 管 — 船本 吉岡（打ち切り） — 西村 長谷川 2 — 冨田 1 仲尾 2

15-5 18-6 — 15-7 9-0 — 15-0 4-0 — 15-5 8-0 — 15-10 12-0 — 管（打ち切り） — 10-15 6-15 18-16

1 亀谷 — 0 伊東 中谷 — 0 山本 — 0 亀里 — 0 高橋 山本 — 高橋 加藤 後藤 — 2 石黒

▽法大 4（D2－1 S2－2）3 早大

吉岡（打ち切り） — 坂本

管（打ち切り） — 高橋 加藤 後藤

○女子1部

▽日体大 3（D2－0 S1－2）2 日女体

西村 2 — 工藤 2 — 沼沢 2 浅沼 — 中村 1 工藤 — 秋庭 2 西村 — 杉本 1 — 岩崎 0

15-7 12-0 — 15-12 12-0 — 15-2 11-0 森 — 10-15 4-15 2-15 — 15-8 15-0 木村 — 9-15 15-15 18-15 — 8-15 12-15

0 諏訪 — 0 木村 — 0 堀井下 — 2 諏訪 宮崎 — 0 木村本 — 2 森下 — 2 宮崎

▽日体大 4（D2－1 S2－2）3 慶大

宮森 2 — 佐藤 1 — 井宮森上 1 — 仲尾藤 2 — 冨田井 2

15-10 15-8 — 2-15 4-15 15-7 — 16-18 18-15 15-18 — 15-12 12-15 15-12 — 18-13 12-15 15-11

0 水内 — 2 茶谷 — 2 橘川谷 亀 — 1 小茶中谷 — 1 平野 水内

▽東女体 3（D1－0 S2－0）0 青学大

大塚 2 — 日藤井 山 2 — 関塚 根 2 — 徳永 0 — 関根 0

11-3 11-4 9-12 — 15-9 16-18 15-8 — 15-5 15-4 9-15 — 1-11 2-11 — 9-11 5-11

1 渡辺 — 1 米倉田 石 — 1 渡辺 近藤 — 2 米倉 — 2 近藤

▽大妻大 3（D2－0 S1－1）1 埼玉大

高岸（打ち切り） — 荒木 若園

小松土谷（打ち切り） — 橋本 若園

沢内高岸 2 — 荒木 山管 0

塚本 2 — 橋本 0

沢内 2 — 代 0

松田 1 — 平松 2

大友 2 — 仲沢 0

喜多川松田 2 — 平松村橋 1

15-9 5-15 15-4 — 11-1 11-5 — 2-11 7-11 11-4

大友 15—4
梁瀬 2 0 仲沢
15—8 高野
喜多川（打ち切り）村橋

〈順位〉

○男子1部
1位 中央大学 5勝0敗
2位 法政大学 4勝1敗
3位 早稲田大学 3勝2敗
4位 日本大学 2勝3敗
5位 日本体育大学 1勝4敗
6位 慶応義塾大学 0勝5敗

○男子2部
1位 青山学院大学 5勝0敗
2位 関東学院大学 4勝1敗
3位 大東文化大学 3勝2敗
4位 専修大学 2勝3敗
5位 明治大学 1勝4敗
6位 千葉大学 0勝5敗

○女子1部
1位 日本体育大学 5勝0敗
2位 日本女子体育大学 4勝1敗
3位 東京女子体育大学 3勝2敗
4位 青山学院大学 2勝3敗
5位 大妻女子大学 1勝4敗
6位 埼玉大学 0勝5敗

○女子2部
1位 東京学芸大学 5勝0敗
2位 日本女子大学 4勝1敗
3位 早稲田大学 2勝3敗14P
4位 明治学院大学 2勝3敗12P
5位 昭和女子大学 2勝3敗6P
6位 群馬大学 0勝5敗

〝完勝の完勝〟

最近の男子1部リーグにおいて、これほど他校を引き離しての優勝もめずらしいのではないだろうか。5日間の計32試合を通し、落としたポイントはわずか2試合だけという、素晴らしい戦いぶりであった。

西村（4年）、長谷川（3年）両エースの健在はもちろん、その試合運びは余裕たっぷりに感じられた。また最近めだって実力をつけた選手に管（3年）、吉岡（2年）があげられる。管は東日本の覇者である仲尾（法大）、また2位の工藤（日体大）をファイナルの末にくだすという活躍ぶりで、米山（3年）とのダブルスにおいてもその健闘が光っていた。吉岡も小柄ながらその小気味よい、機敏なプレーは将来が楽しみといったところ。今大会改めて中大の層の厚さを見せつけられた。

西村も最後のシーズンを優勝で飾り、長谷川をはじめとする実力派を多く残し、安心してリーグを去ることができるだろう。

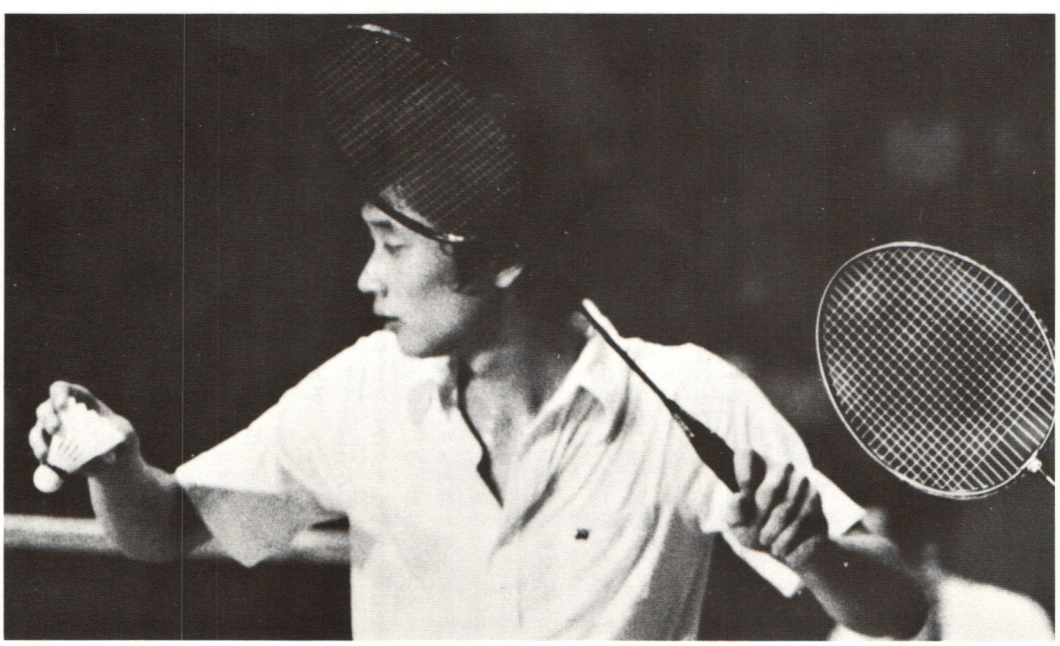
春の汚名をそそぐ

春は3位に甘んじた法大も、今大会において優勝はならずともみごと2位を獲得し、名誉ばん回を果たした。

〈第3日目〉

▽法 大 4（S2—2 D1—2）3 日 大

仲尾 2 15—3 15—6 0 亀里
冨田 0 9—15 6—15 2 高橋
仲尾 2 15—8 18—16 0 中谷
佐藤 2 9—15 9—15 0 伊東
井上 0 9—15 9—15 2 後藤
鈴木 0 15—8 3—15 18—13 1 山本
冨田 2 井酒



長谷川



関根　大塚

宮森2	15	15	12	15
佐藤1	12	15	15	12
	8	15	6	15
0坂本2山本				

シングルス、ダブルスともに1本ずつを取り、2対2でむかえた第3ダブルス。結果は右の通りとなったが、山本・高橋は、7月に行なわれた東日本の優勝ペアであり、やはりこれを破った冨田・酒井の健闘はたたえられるべきであろう。

そしてこのゲームの勝敗が、両校の明暗をはっきり分けたようであった。

山本の不調をはじめ、日大の4年生勢は今大会もう一つ元気がなかったのが残念な気がする。

リーグ戦に強い早稲田

リーグ戦最終日、法大対早大の2位、3位決定戦は、双方とも3勝1敗でむかえ、実力伯仲の好試合となった。

法大は仲尾（4年）、佐藤（4年）、冨田（2年）、酒井（2年）らの健闘が目立ち、早大は茶谷（4年）、亀谷（3年）の活躍が光っていた。特に亀谷は、対日大戦で山本を、対日体大戦で岩崎をくだし、茶谷は今大会3つの試合において第4シングルスの重責を果たしてきただけに、この2人の法大に対する食いさがりが期待された。

第1シングルスで石黒（2年）が冨田を破る波乱を演じたのをきっかけに、7試合中6試合までがすべてファイナルゲームという、まさに気迫と気迫とのぶつかり合いといった形になった。

それにしても、早大はリーグ戦という独特の雰囲気の中での試合に強い。やはり個人の実力だけが良い結果を生むのではなく、チームワークの重要さを改めて見直すべきであろうか。

日体大、気迫の勝利!!

見るものにとってはまったく見ごたえのある、そして日体大、日女体大両校の選手たちにとって、これほど心臓にこたえる試合は今大会女子1部リーグにおいては唯一といってよい好ゲームの連続であった。

まず第1シングルス、第2シングルスとこのあたりではほぼ予想通りに試合は進み、日女体大の優勝はまちがいないものと思われ、通算34回目の優勝と、誰もが考えたにちがいない。

しかし第1ダブルス、第1ゲーム近藤・渡辺が9本でおさえたものの、第2、第3ゲームでは、渡辺にミスが目立ち、波に乗った関根・大塚が、4本、5本と失点を最小限にくい止めて勝ち点をあげた。

この試合により、今までのムードは一転して追う側の日体大の意気が盛り上がった。

続く第2ダブルス、安定性のある石田・米倉に対し、やや不利かと思われた日山・藤井ではあったが、日山がよく1年生の藤井をリードし、積極的な攻撃で相手のミスをさそい、激戦の末ファイナルゲームをとった。

これで続くポイントゲッター大塚への望みがつながったわけである。

さて渡辺対大塚の対決、第1ゲームはセッティングで渡辺がとったものの、第2、第3ゲームはダブルスの疲れが出たのか足が動かず、大塚のカットを中心とした攻撃に屈し、遂に当然ともいうべき優勝を日体大にゆずった。

0—2から3—2への大逆転劇を演じた日体大のチームワークとねばりは、リーグ戦ならではのものであり、有望新人の活躍もあって、今後が大いに期待される。

また優勝候補ナンバー1であった日女体大は、近藤、米倉両ユーバー杯選手を備えながらの敗退であり、そこに、個々の力よりも団体の力がモノをいったという感はまぬかれない。


バごし爽快! サントリービール
サントリービール純生®
SUNTORY
BREWED
BREWERY
純生

ジアはひとつ”

ポール両国の人々と心のきずなを結ぶ

●バドミントン選手団監督　藤川　幹

去る七月二十六日福岡空港を出発し、マレーシア、シンガポールを友好訪問して、八月一日帰ってきました。

今回の福岡市青年友好の翼は、福岡市の青年を東南アジアへ派遣し、両国青年と交歓や参観を通し、相互理解と信頼を深め、国際親善の増進に寄与する。また国際的視野を広く持つ青年の健全な育成をはかる目的で企画されたものです。

これにより、スポーツ交歓活動としてバドミントン、サッカー、柔道が訪問国の強い要望により、現地の青年と交歓試合を行なうことになり、福岡市バドミントン協会から、酒井薫（福岡クラブ）、江口俊彦（福岡相互銀行）、本石幸一（福岡クラブ）、木原良子（草ヶ江クラブ）、山下美恵子（福岡大学三年）と私（福岡市協会理事）の六名が参加する機会を得、一週間の貴重な経験を積むことができました。

次に団の構成は、福岡市の進藤一馬市長を団長とし役員、一般団員およびスポーツ交歓団員約百名をもって編成されたものです。

これから、私たちの訪問スケジュールにそって交歓活動を紹介します。

「七月二十六日」　マレーシア

九時。ＪＡＬ臨時便にて福岡空港出発。

一時半。クアラルンプール（スバン空港）着。



マレーシアのカンポンパンダンにて

福岡との時差は一時間半。

「七月二十七日」

六時半起床。朝のトレーニング（宿舎付近の住宅街をランニング）。

本日より公式行事の始まりである。

国立トレーニングセンター訪問。

国立動物園にて動物交換。

国会議事堂見学。

夕食は、文化大臣主催のガーデンパーティー。

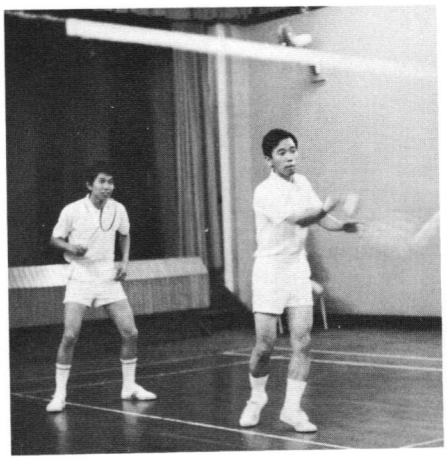
「七月二十八日」

午前中は、マラヤ大学および工業地帯見学。

午後スポーツ交歓。

カンポンパンダンという地区にあるスポーツセンターで、地区のメンバーとの交歓試合。

予定では、七試合行なうことになっていたが時間の都合上四試合に短縮。



江口選手（左）と筆者

福岡市青年友好の翼に参加して

ハタで感じた"ア

――マレーシア・シンガ

男子ダブルスについては、好プレーの連続で熱戦が繰り広げられ、特に江口君の健闘が光ったが、ダブルスは、男女ともマレーシアでは、あまり練習に力を入れてないように思われ、一方的内容に終わる。結果は福岡選抜の三勝一敗。

「七月二十九日」

バスでクアラルンプールよりシンガポールへ向う（所要時間八時間）。

全員疲れぎみであったが、そのまま夜の訪問先であるコミュニティセンターへ。

宿舎の国立ユースセンターへ帰り着いたのは、十一時過ぎであった。

「七月三十日」

午前中にシンガポール人民協会にて、同協会の職員クラブと交換試合を行なう。結果は福岡選抜の八戦全勝に終わったが、内容的には、お互い精一杯のプレーを交え、友好親善を体で確め合ったと思う。また試合後、お互いの健闘をたたえ合い、再会の機会を約束し、友情を深め合った。夜は、人民協会のメンバー千名以上が、ユースセンターのグランドに集まり、私たちと盛大にフォークダンスを楽しんだ。



右から山下、木原、江口、酒井、本石、筆者の各選手

「七月三十一日」

シンガポール市内見学、およびショッピング。



山下（左）と木原の両選手

「八月一日」

シンガポールより空路福岡へ。

五時過ぎ福岡着。

最後に、今回の友好訪問は一週間という強行スケジュールであったにもかかわらず、私たちを心から歓待してくれた両国青年と、私たちの心の絆が強く結ばれたものと確信するとともに、アジアと日本は一つであることを直接肌で感じることができたことをうれしく思います。

またこの貴重な経験を基に、選手一同今後のバドミントン活動に一層力を入れることを誓うとともに、私たち選手に対し御援助いただいた方々に深く感謝申し上げます。

オールジャパンを予想する

"銭谷時代"から"三強時代"か？

湯木は六連勝が濃厚

〈男子シングルス〉

今年のオールジャパンの男子シングルスは面白くなりそうだ。

まず優勝候補に挙げられるのは銭谷（河崎ラケット）であるが、さきの社会人では、国内では1年ぶりに敗れ、その復調度に興味が持たれる。

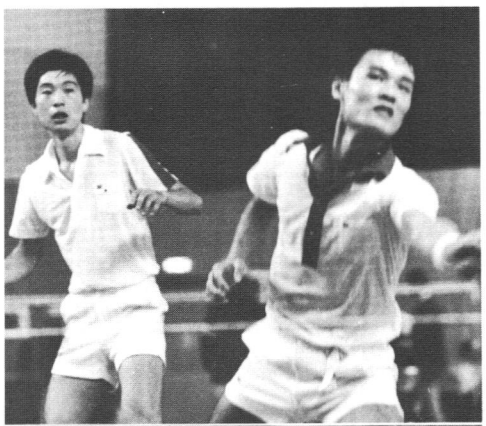
2番手にはインカレ以来、社会人で初めてシングルスを制した土田（電電東京）と、銭谷に土をつけた飯野（ヨネックススポーツ）が続き、この3人の争いは近年になく激しいものとなるだろう。

国体で復活した小島（ラケットショップ元町）が、どこまでこの3人に食い込むか、ベテランの味を発揮するかも大きな呼び物の一つだ。

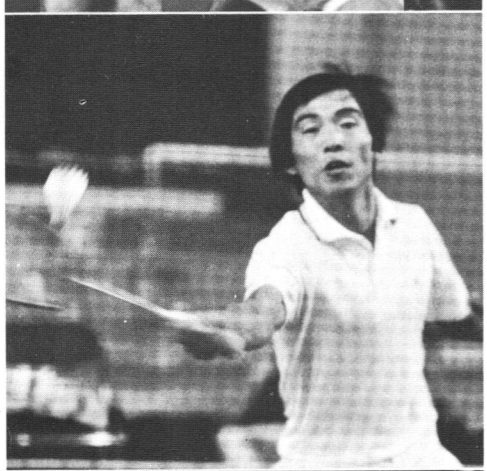
栂野尾（ヨネックススポーツ）も今年は安定した成績を残し、精神的に落ち着きが出ているので活躍が期待できそうだ。

他には尾崎（電電東京）、今泉（高岡市役所）、笠井（関東自工）らがどんな戦いぶりを見せるか、成長著しい西村（ヨネックススポーツ）、辻（同）、中井（河崎ラケット）らのプレーに注目したい。

学生からは、これから行なわれるインカレで上位入賞を果たすと思われる長谷川、西村、管（ともに中大）、宮崎（慶大）らの大学勢と、インターハイ三冠王の西山（比叡山高）の動きに興味深いものがある。



飯野・土田



銭谷

〈女子シングルス〉

女子シングルスは、社会人で復調なった湯木（河崎ラケット）の優勝は不動であろう。完成されたそのプレーを崩すのは容易ではない。実業団で優勝した徳田（サントリー）がこれに続くが、社会人では雪辱されており、いよいよ決着をつける大会となった。

今年は遠征の多かったユ杯のメンバー、近藤（日女体大）、植野（四条畷短大）が、どんな収穫を披露してくれるか非常に楽しみだ。全英、世界選手権でも強豪を相手に善戦しているだけに、思わぬ金星をあげるかも知れない。

関東学生女子のタイトルを分け合った関根、大塚（日体大）、二年生でインターハイを取った原口（四条畷学園高）が新鮮味のあるプレーでどこまで迫るか期待は大きい。

その他の選手にも、西尾を筆頭にした秋本（八）、秋本（幸）、谷、高田のサントリー勢。石原、田所（ともに琴平電鉄）、沼能（旭光学）、池田（美）、千葉（ともに河崎ラケット）、池田（茂）（電電東京）松田（青森県）、ら好選手がひしめいており、上位争いは白熱しそうだ。



徳田

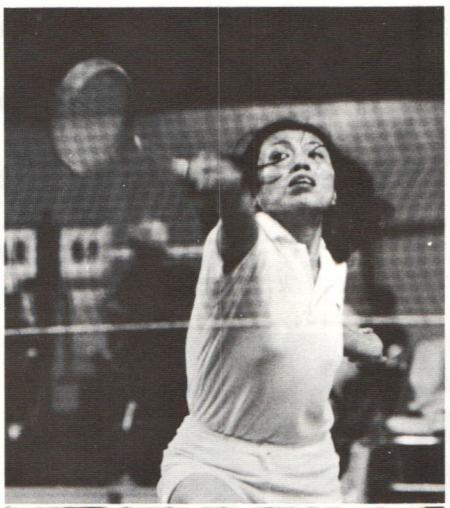
〈男子ダブルス〉

池田・栂野尾組と飯野・土田

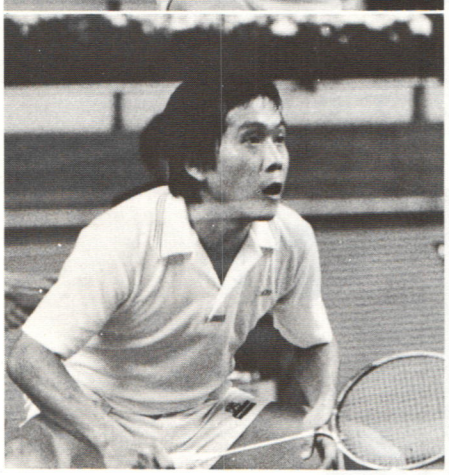
組の決勝進出は間違いないところであろうが、オールスター、国体と2連勝している飯野・土田組にやや分がありそうだ。破壊力ある攻撃は今や敵無しの感がある。飯野・土田組の大砲2門に対し、栂野尾1門の池田・栂野尾の苦戦が予想される。池田のリードにすべてがかかってくるだろう。

今泉・牧野もひと頃のしぶとさが見られないが、まだまだ上位入賞は逃がすまいと思われるし、銭谷が誰と組んで出場するのかも気になる。

おそらくインカレのタイトルを争うと思われる西村・長谷川組と、山本・高橋（日大）の学生ペアは、今年こそ上位入賞を狙ってくるであろう。



湯木



小島

〈女子ダブルス〉

出場が微妙になってきた栂野尾・植野組だけに予想がむずかしい。出場すればもちろん3連勝が濃厚であるが、今年一年で大きく成長した徳田・高田組も行く手をはばむだろう。実業団、社会人と今年無敗を誇る徳田・高田組は、その成長の跡を計る意味でもぜひ、栂野尾・植野と対戦したいところ。

今年は不調だった湯木・池田（美）組は、そのまま湯木が池田（美）と組んで出るか、ユ杯でコンビを組んだ近藤と出るかで違ってこよう。どちらにしてもパートナーのでき次第である。

その他にも上位を狙うペアには、西尾・秋本（八）組、谷・秋本（幸）組のサントリー勢、石原・田所組、学生界から関根・大塚組がおり激戦は必至である。

〈ミックス〉

ここも優勝候補の一角、連勝を狙う栂野尾夫妻の出場が危ぶまれている。

しかし実力伯仲の好ペアが数多く、混戦模様である。

実業団に勝った日下・牛田組（百十四銀行）、社会人に勝った池田夫妻がその筆頭であろう。紙一重の差で続くのが田所・今田組（電電東京）、中井・千葉組、である。いずれにも優勝のチャンスがあり、アキレス腱切断から回復した今井・池田（美）組（河崎ラケット）も加わって激戦が予想される。

山梨県と千代田区が交流会

東京都千代田区バドミントン協会恒例の役員管外研修会は、大田区協会の協賛を得て、山梨県バドミントン協会と交流しました。

秋晴れの10月15・16日の両日、甲府市を訪問。理事長遠藤氏のお世話により、まず初日は武田信玄ゆかりの、名物「ほうとう鍋」を囲んで、原会長をはじめ、役員の方々と協会の運営などについて、日頃懸案となっている問題点を掘り下げ、翌日の親善試合での健闘を誓い合って、終始なごやかなうちに意見を交換。

第2日目は、湯田高校体育館において日頃の腕（？）を競い合いました。



結果は次の通りです。

山梨県								千代田区
野口	遠藤	植原	真壁					山崎
横山	竹下	松野	伊藤					菅原
2	2	2	0					1
15—10	15—10	15—11	15—8					15—10
17—18	15—12	15—8						18—13
15—4								15—10
植原	遠藤	野口	真壁					山崎
松野	竹下	横山	伊藤					菅原
2	2	2	0					1
15—11	15—12	15—10	15—8					15—10
15—8	15—10	17—18						18—13
		15—4						15—10
渡辺	白倉	横山	植原	遠藤	市川	新用	橋爪	三上
竹下	栗田	伊藤	真壁	山崎	伊藤	栗田	菅原	石井
2	0	2	0	2	0	0	0	0
15—12	15—12	15—13	15—5	15—10	15—13	15—8	15—6	15—8
15—10	18—15	10—15	3—15					12—15
								15—12

ご結婚おめでとう

銭谷欽治選手が相沢マチ子さんと結婚

全日本シングルスのチャンピオン銭谷欽治選手は、元全英ダブルスチャンピオンの相沢マチ子さんと結婚した。

10月9日、秋風爽やかな日曜日、銭谷欽治選手の故郷、石川県大聖寺で石川県バドミントン協会理事長・中島寿禧氏ご夫妻のご媒酌により、無事挙式をあげた。

披露宴は、多数のバドミントン関係者の見守る中、挙式の当日と、16日の東京と2度にわたって開かれた。

新郎、新婦の高校時代、大学時代の恩師や友人が、次々と思い出話やエピソードに花を咲かせるうちに、両人の長かった春（？）のなれそめからも暴露されたり、ハプニングも飛び出したりして、華やかな祝宴がいつまでも続いた。

会場は大聖寺、東京ともバドミントン一色に塗りつぶされ、「新郎にはぜひ、世界チャンピオンになってほしい」との激励が相次ぎ、「毎日マチ子さんの手料理が食べられるなら、きっと近い将来に実現するでしょう」とは、関係者の一致した意見だった。



キャンドルに火をともす



ナショナルチームのメンバーもお祝いに



ご媒酌人とともにこの笑顔!!

ヨーロッパ情報

スティーブンスとキルビントンが優勝

前号の〝ギルクス復帰〟のニュースにつづいて、今月は、サリーで行われた英国シングルス招待大会のもようをお知らせします。

10月2日イングランド南部サリー州のワキング・レジャー・センターで英国シングルス招待大会が行われた。

この試合でイングランド・ランキング2位のレイ・スティーブンスは、準決勝でデビッド・ハントを、そして決勝ではジュニア三冠王のケビン・ジョリーを破って、彼にとって本大会4度目の優勝をとげた。

ジョリーは第1ゲームで11オールとよくがんばったが、トレーニング十分のスティーブンスに押し切られてしまった。しかし、ジョリーは準決勝で、マイク・トレジェット（イングランド・ランキング3位）を破る殊勲を立てての決勝進出であった。

一方、女子は、今大会第2シードのポーラ・キルビントン（イングランド・ランキング4位）が、ノラ・ペリーを破って初優勝した。

おもなスコアは次のとおり。

◆男子▽準決勝

K・R・ジョリー　15—0、15—9　M・G・トレジェット　R・P・スティーブンス　15—3、15—8　D・R・ハント

▽準決勝

スティーブンス　15—12、15—3　ジョリー

◆女子▽準決勝

N・ペリー　11—6、4—11、11—6　J・A・ウェブスター　P・M・キルビントン　11—5、11—0　K・ホワイティング

▽決勝

キルビントン　11—1、11—3　ペリー

この大会記録でもおわかりのように、ジョイント・ナンバーワンのマーガレット・ロックウッドの名前が見当りませんが、イングランドの女子選手から聞いた話では、右ひざの状態が依然として思わしくないとのことです。

しかし、その反面、じっくり静養していよいよ始まるユーバー杯の予選に備え、ギルクスとともに英国の重要なポイントとして活躍するのか、真偽のほどはいまのところつかめません。

なお、日本ではランキングを作るときは、ナンバーワンは文字どおり一人で以下2、3、4と続いていますが、イギリスでは、ジョイント・ナンバーワンと称して、ナンバーワンを二人設けています。

現在の女子のジョイント・ナンバーワンは、ギルクスとロックウッドです。

（以上山本洋彦氏提供）

Air Mail From London by H. Yamamoto

来年の4月まで大会がぎっしり

ヨーロッパ各国でも10月1日からいよいよシーズンにはいり、各地から大会のニュースが届いております。

同時に今後の大会のスケジュールが送られてきており、それをみると過密ぶりに驚かされます。

とくに本場イングランドは、ほとんど毎週大会が開かれており、やはりその根強さ、普及度などは、日本をずっと上回っているようです。

まず国際大会の日程をお知らせしておきましょう。

オーストリア国際大会（11月4～6日、メードリンク）

ポーランド国際大会（12月3日、ワルシャワ）

ウェールズ・オープン大会（12月2～3日、カーディフ）

インド選手権（12月26日～1月1日、ゴア）

スウェーデン・オープン大会（1月5日～8日）

スコットランド・オープン大会（1月20～21日、エジンバラ）

オランダ国際大会（2月10～12日、ベイバイク）

アイルランド・オープン大会（2月17～18日、ダブリン）

デンマーク・オープン大会（3月9～12日、コペンハーゲン）

全英選手権（3月15～18日、ウェンブレー）

ユーバー杯インターゾーン大会（5月13～20日、ニュージーランド）

英連邦大会（8月3～18日、カナダ）

イングランド協会関係の大会は、10月に5大会、11月10大会、12月5大会、1月11大会、2月9大会、3月5大会、4月4大会（いずれも10月現在のスケジュールで）があり、その内容はジュニア、21歳以下など多彩になっています。

来年4月には、ヨーロッパ選手権がイギリスで開かれますが、その予告、大会案内が早くも完成しています。

それによりますと、日時4月9日から15日、会場ブレストンのギルド・ホールとなっており、各種目の開始時間、入場料も明記してあります。

わが国の広報活動とは、とても比較することもできません。こういった面でも、〝本場〟から学ぶものは、数多くあります。

バド界としても、大いに刺激されていますが、驚いてばかりいないで、少しずつでも実行に移していきたいと思っています。

いま うわさの……



S-76 スーパーラッシュ

極細の特殊加工スチールテーパーシャフト使用。
反発力が一段と増し、抜群の攻撃力が生まれプレーヤーの持っている力を十二分に発揮出来るすばらしいパートナーが出現しました。

play with...
SunBatta

SUNBATTA

バックナンバー一覧表＝お申込みはハガキで

シメキリ＝12月31日

NO・2

本誌バックナンバーの新しいリストができあがりました。本誌はそろえて保存すれば「**バドミントンの百科事典**」となります。

- **34号**＝130円 ▶ユ杯の三連勝なる▶栄光と熱戦のあと▶神様に昇格した中山主将▶栄冠涙あり
- **40号**＝130円 ▶72年度全日本総合選手権▶小島〝復活〟▶女子ホープは目白押し▶アマチュアリズムとは
- **51号**＝130円 ▶第3回国際競技大会▶女子の活躍で日本選抜辛勝▶小島一平の実戦教室
- **52号**＝220円 ▶全英選手権大会▶湯木2度目の女王の座へ▶相沢・竹中3連勝ならず▶小島一平の実戦教室▶中山紀子・私の歩んできた道
- **53号**＝220円 ▶全英選手権を終えて（湯木博恵・栂野尾昌一）▶スナップ写真集▶小島一平の実戦教室▶中山紀子・私の歩んできた道
- **54号**＝220円 ▶ピンナップ特集▶外国からの挑戦者たち
- **55号**＝220円 ▶第5回全日本女子チャンピオンズトーナメント▶小島一平の実戦教室▶中山紀子・私の歩んできた道
- **64号**＝220円 ▶第4回国際競技大会▶湯木ギルクスに快勝▶英国強し▶第6回全日本女子チャンピオンズトーナメント
- **65号**＝220円 ▶小笠原母島のバドミントン▶デンマークオープン▶全日本総合団体戦
- **68号**＝220円 ▶無念！ユ杯V4ならず▶湯木・中山の健闘むなし▶バドミントンに賭けた青春＝湯木博恵
- **69号**＝220円 ▶ユ杯詳報▶湯木、中山マイペース▶相沢・竹中不調▶日本必死の防戦も及ばず
- **70号**＝220円 ▶インターハイ▶植野女子三冠に輝く▶男子は林田が制す▶東日本学生選手権
- **71号**＝220円 ▶トマス杯東地区予選日本対香港▶日本完勝▶土田初出場で重責を立派に果たす
- **72号**＝220円 ▶全日本社会人選手権▶小島・湯木が優勝▶全国の指導者に望むこと
- **73号**＝220円 ▶第4回日中競技会▶ヤングパワー林詩銓▶はつらつ劉霞▶中国ランキング
- **74号**＝220円 ▶75年全日本総合選手権▶小島不滅の金字塔▶湯木キズだらけの四連勝▶徳田白熱の善戦
- **75号**＝220円 ▶第30回国民体育大会▶神奈川が2年ぶり10度目の栄冠▶全日本学生選手権
- **76号**＝220円 ▶トマス杯アジア東地区決勝日本対韓国▶日本9―0で完勝▶第5回国際競技大会
- **77号**＝220円 ▶全日本総合選手権団体戦▶第7回全日本女子チャンピオンズトーナメント▶ジャカルタの新聞とユーバー杯
- **78号**＝300円 ▶全英選手権大会▶ハルトノ8回目の栄冠▶ギルクスは三冠王▶第1回アジア招待大会▶スミラト中国勢を連破して優勝
- **81号**＝300円 ▶学生大会集
- **82号**＝300円 インターハイ▶金沢市工、四条畷が連勝▶男子宍戸、女子石川が栄冠▶全国中学生大会▶全日本教職員選手権▶京都家庭婦人大会▶長崎家庭婦人大会
- **83号**＝300円 ▶76年オールスター男子ダブルス▶全日本社会人選手権▶シャトルコックの研究
- **84号**＝300円 ▶石川県家庭婦人大会▶全日本社会人選手権上位戦記録▶良好書紹介
- **85号**＝300円 ▶全日本学生選手権▶第31回国民体育大会▶第3回全日本家庭婦人大会▶渋谷バードクラブ紹介
- **86号**＝300円 ▶76年総決算号
- **87号**＝300円 ▶日本協会の使命と今後の課題▶第5回日中大会報告▶大阪中央YMCAクラブ紹介
- **88号**＝300円 ▶76年全日本総合選手権写真集▶しらぎくクラブ紹介
- **89号**＝300円 ▶76年全日本総合選手権全記録▶直撃インタビュー小島一平選手は語る▶サントリーチームを訪ねて▶シャトルコックの製造工程
- **90号**＝300円 ▶第6回国際競技大会▶プリ、ついにベールをぬぐ▶欧州男子、スマッシュの威力▶第5回全日本実業団対全日本学生

◆別冊①◆ユーバー杯奪還への道＝1000円
A5判128ページ、うちカラー16ページ、第7回ユーバー杯大会（ジャカルタ）全記録をはじめ、観戦記、奪還策等を満載。

◆別冊②◆ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック＝500円　B5判48ページ、うちカラー4ページ。豊富な連続写真と詳しい解説、美しいグラフで構成したすぐ役立つもの。S・プリ、F・デルフス、B・フローマン、M・ロックウッド、チュンチュン、ワジュディらのプレーを小島、栂野尾、池田、銭谷、尾崎、飯野、土田、湯木、栂野尾(悦)がわかりやすく解説。

バックナンバー、別冊のお申込みは、他の用件とは別に、必ず葉書で下記あてお申し込みください。代金は現品到着後、当方からお送りする振替用紙でお振り込みねがいます。

〈申込先〉
〒150　東京都渋谷区神南1―1―1
岸記念体育会館内・**バドミントン界編集部**
（なお、発送は集中方式となりますので、2～3週間程度かかります。また、このリストの有効期限は昭和52年12月31日までです）

別冊

ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック

好評発売中

B5判・48ページ
500円・送料120円

別冊「ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック」は、いまや世界の頂点に立ったヨーロッパ選手を連続写真によって徹底的に分析し、その強さの秘密をさぐろうというものです。

そして各プレーには、わが国第一線の選手による詳しい解説がつき、さらに美しいカラーグラビアのページもあります。ぜひご覧ください。

▼**定価**＝500円（送料120円）
▼**判型**＝B5判・48ページ・うちカラー4ページ
▼**登場選手**＝F・デルフス、S・プリ、T・キールストロム、B・フローマン、M・ロックウッド＝以上連続写真
S・プリ、F・デルフス、P・ニールセン、I・ボルグストロム、M・ロックウッド、N・ペリー、チュン●チュン、ワジュディ、クリスチャン、チャンドラ、梁秋霞、劉霞＝以上グラフ
▼**解説**＝小島一平、池田信孝
栂野尾昌一、尾崎幹雄、銭谷欽治、飯野佳孝、土田証雄、湯木博恵、栂野尾悦子
▼**お申し込み方法**＝はさみ込みの振替用紙の通信欄に、部数を明記のうえ、お近くの郵便局から代金をお振り込みください。手数料はかかりません。

オールジャパンを見にいこう

昭和52年の最後をかざる全日本総合選手権が近づいてきました。この大会は、俗にオールジャパンと呼ばれ、まさに〝日本一〟を決める国内最大・最高レベルのものです。

出場資格は、昨年度本大会ベスト10までの選手と、今年度の全日本実業団、社会人、教職員、学生、高校の各大会ベスト8までの選手です。これに国外招待と若干の推薦選手を加えたきわめて内容の濃いものとなります。

したがって競技は非常に密度の濃い、白熱したものとなるので、毎年多くの好ゲームがくり広げられています。

今年は、12月13日(火)夜の開会式・レセプションに続き、14日から18日まで開かれます。

会場は、14日＝目黒区体育館、15日＝文京区体育館、16日＝目黒区、文京区両体育館、17日、18日＝国立競技場代々木第2体育館で、時間、入場料は未定です。

この大会会場で、各種出版物を展示、販売いたしますので、ぜひご利用ください。

当日販売するものは、78年カレンダー、合本バインダー、本誌バックナンバーで、年間購読のお申し込みも受け付けますので、お誘い合せのうえ、ご来場ください。

大会に関するお問合せ等は、日本バドミントン協会（03―467131111(代)）までどうぞ。

編集室から

◆今月は〝あすなろ国体〟のようを中心にお届けしました。各種記事が集中したため、48ページに増ページいたしました。

◆カレンダーは早速、たくさんの予約をいただきましたが、到着順に発送を開始しましたので、間もなくお手もとに届くころです。

◆また、合本バインダーもデザインを新しくして発行になりましたので、お早めにお申し込みください。

◆バックナンバーも整理が終了しましたので、一覧表をごらんのうえ、お申し込みください。万一品切れになりました場合は代金をお返しいたしますので、はさみこみの振替用紙をご利用になり、お近くの郵便局からお申し込みください。

◆なお、今月から年間購読をはじめ、各種出版物のお申し込みは、すべて振替をご利用いただきますので、はさみ込み用紙をご利用願います。

バドミントン界　通巻第97号　1977年11月号　定価 300円

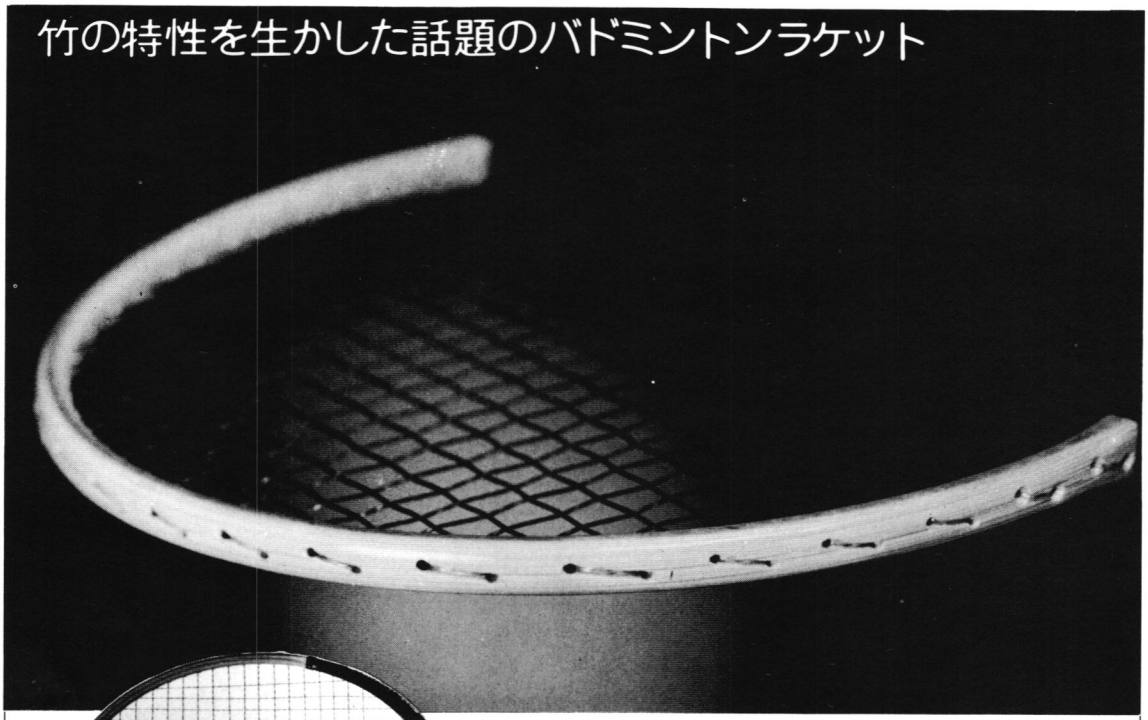
昭和52年11月15日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

©1977　無断転載を禁ず

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111(代表) 内線351
振替　東京5－9525（バドミントン界編集部）

うなる打球/格調のバンブー

竹の特性を生かした話題のバドミントンラケット



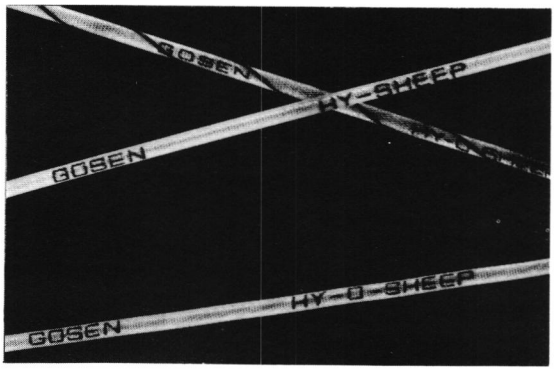


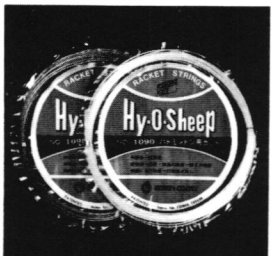
Hy-Thomas

No. B45 ハイ・トーマス(バンブー) ￥4,500　★最高級選手用ロングテーパーシャフト フレーム・カバー付



最後まで勝ち抜くもの/品質保証のビッグなガット

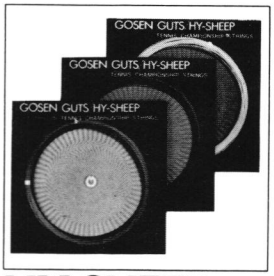




HY-O-SHEEP

No. 1090/1091 ハイ・オー・シープ ￥600

由入特殊ガット最高級品選手用 アンバー・青スパイラル



HY-SHEEP

No. 1060 ハイ・シープ　￥400

選手用(アンバー・赤・青)

株式会社ゴーセン
■本　　社●大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816 代
■東 京 支 店●東京都台東区蔵前4-14-2 ☎(03)862-6576 代
■福岡営業所●福岡市中央区薬院1-4-8 ☎(092)712-5247 代

月刊「バドミントン界」11月号　昭和五十二年十一月十五日発行（毎月一回発行）
発行所　東京都渋谷区神南一ノ一ノ一　日本バドミントン協会　定価三〇〇円



目下の話題はカーボネックスセブン。

強烈な反発力が評判のカーボネックス３につづきカーボン・シャフトの先端に、特殊アルミ合金のフレームを持つ新鋭ラケット、カーボネックス7の登場です。カーボン・シャフトの強力なバネ力と、特殊アルミ合金フレームとの力バランスが、すさまじいスマッシュを生みだします。スピードは抜群。そのうえ、スイート・スポットが広いので、シャトルを確実にとらえます。世界の一流プレイヤー達が、力から技へそしてまた力へと移ってきた現在、カーボネックス７はまさに時代への解答。すでにあるウッド・フレームとカーボンシャフトのカーボネックス３とともに、あなたの武器にしてください。

●日本初のこと――このラケットにはRとXの表示があります。Rはレギュラーでスナップ打法用。Xはエキスパートでフルスイング打法用です。

B-8300 Carbonex7

●カーボネックス セブン……￥7,700

YONEX